

幼の兒の教育

號五第 號月五 卷六十三第



東京女子高等師範學校
日本幼稚園協會

文學士 寺田精一 著

兒童の惡癖

◆重版!! 菊判洋綴全一冊紙數五百頁
定價金三圓五拾錢送料廿二錢

兒童惡癖の初期診斷と其治療
矯正の實際的研究書!!

教養者が特に注意してゐる問題であるに拘らず
兒童の惡癖はその處遇に關して頗る曖昧な態度が
取られてゐるのは、畢竟、惡癖の由つて來る所が複
雜であるのと、教育家にその方面の餘裕なき爲で
あり、從つて兒童の生活に對する周密な觀察や、懇
切な注意も届かず、往々にして絶望的態度が先入
してゐることすら決して稀ではない。本書は教養
上より觀た主なる惡癖を選び、心理學的見地より
深く童心に立入つて考察したもので、これ等に最
も肝要な條件たる諸原因及び其の性質の何たるか
は勿論、癖となる虞あるもの、癖となるべき初期の
程度にあるもの、判斷と、その矯正法を詳述した
通俗且實際的な兒童教養書である。各小學校、幼稚園
の常備書として、教育家各位の御精讀を望む。

發兌 東京市牛込區
振替東京三八四一七
中文館書店

東京高等師範學校教授
文學博士 小野島右左雄 著

版四 最近心理學概說

本書の最も特長とすべき點は全卷一貫せる思想を
以て凡ゆる二卷を味讀すれば一般心理學に滿ち
本書上下二卷を味讀すれば一般心理學に滿ち
學、青少年心理學、發達心理學、個性心理學、社
會心理學、變態心理學、動物心理學、教育心理學等
の凡ゆる心理學の一般の智識を獲得すべきは勿論
學者は本書に依つて斯學の一般を知るに止まら
ず科學の方法論・生活論・理學の成立と新しき哲學
兒童の心理學制の理論と教育の新方法を教へられ
的確の最も即事的なる論理と應用を示され斯くて
陣に立ち此思想の打明に資す。

醫學博士 吉田章信 著

新刊 新式學校衛生評價

本書は學校衛生施設の評価を研究したもので、全般的に學校衛生の向上を計
取、更に在學中に得たる効果を他の一部に於ては保て失はざる様開始連絡を
と國民を養成すべきを力説す。而して學校長自らの衛生施設に對する強健な
各職任の定めかた、學校に關する關係官廳に於ける施設、師範教育に於て
衛生評價に關する實習の必要等にも言及し、健康保持、一疾疾病の採るべき
正と缺陷に互に對して評説し、斯界最高の指針とす。之必讀
道を巨細に互に對して評説し、斯界最高の指針とす。之必讀

東京帝國大學 文學士 青木誠四郎 著 定價三圓八十錢送料廿二錢

版五 劣等兒 低能兒 心理と其教育

等しく人類と生れ乍らも天赋其の恵みに不公平の物はない、今假に兒童の
白痴に分類するに分類して天才・最上智・平均智・下智・愚鈍・精神薄弱・低能
天痴に分類すると極端な低能兒は全兒童の約二%を占め、愚鈍に分類する
等の餘りての區異者を合すれば二十%に及ぶと言ふ。著者は只管に之等世に構
むべき人達の幸福を少しも増す爲に、より完全な教育を慈惠する爲に本書
を世に問ふたのである。

上卷 定價三圓五十錢
下卷 定價三圓二十錢
合輯 定價五圓八十錢
送料 送料三圓二十錢

春期講演會

左記の通り開催 多數御來聽を希望します。

五月二十三日(土) 午後一時より

東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて (市電小石川區大塚窪町停留場下車)

講演

一、都市の幼兒教育に對する希望

東京市視學 田 島 眞 治君

一、夏期の幼兒衛生

警視廳防疫課長 井 口 乘 海君
醫學博士

昭和十一年五月

日本幼稚園協會

新刊

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集

菊版三五〇頁

定價金壹圓五拾錢

郵稅

市内 金六錢

地方・北海道 金拾四錢

臺灣・樺太 金三拾四錢

朝鮮・滿洲(滿鐵沿線) 金四拾九錢

滿洲一般 金四拾五錢

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まとめにした書物がなにかどの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものご信じます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたゞけば幸いです。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓

送料金四錢

- 一 保育案の實際は幼稚園必須の資料
- 一 東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考
- 一 待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

發行所

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替東京一七二六六番

○定價及郵稅を添へ本會宛直接御註文下さい。

春期講演會

左記の通り開催 多數御來聽を希望します。

五月二十三日(土) 午後一時より

東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて (市電小石川區大塚窪町停留場下車)

講演

一、都市の幼兒教育に對する希望

東京市視學 田 島 眞 治君

一、夏期の幼兒衛生

警視廳防疫課長 井 口 乘 海君
醫學博士

昭和十一年五月

日本幼稚園協會

新刊

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集

菊版三五〇頁

定價金壹圓五拾錢

郵稅

市內 金六錢

地方・北海道 金拾四錢

臺灣・樺太 金三拾四錢

朝鮮・滿洲(滿鐵沿線) 金四拾九錢

滿洲一般 金四拾五錢

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まとめにした書物がなにかどの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものご信じます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りたいければ幸いです。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓

送料金四錢

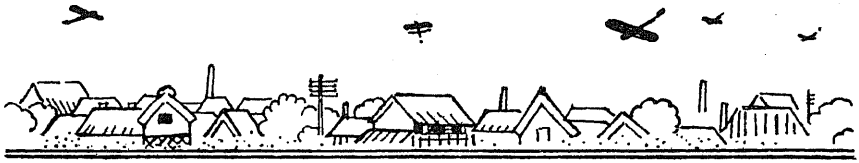
- 一 保育案の實際は幼稚園必須の資料
- 一 東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考
- 一 待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

發行所

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
振替東京一七二六六番

○定價及郵稅を添へ本會宛直接御註文下さい。



第 三 十 六 卷 幼 兒 教 育 第 五 號

— (次 目) —

口繪	倉橋惣三	(一)
卷頭(五 月)	倉橋惣三	(一)
父母と保姆との協力	森川正雄	(二)
保育の第一歩	山下徳治	(四)
兒童心理學文獻抄(十八)	牛島義友	(一〇)
入選童話		(一五)
こどものお辨當		(一九)
心を開かせること	倉橋惣三	(二三)
系統的保育案の實際解説		(二九)
生活訓練	倉橋惣三	
誘導保育案	菊池ふじの	
唱歌遊戯	村上露子の	
談話	新庄よしの	
觀察	小島光子	
手技	及川ふみ	

本會夏期講習會

七月二十一日より六日間文部省主催保育講習が東京女子高等師範學校に於て開催せられる筈につき、その
午後に於て左記講習を催します

期 日 自七月二十一日 至二十五日(五日間)午後一時より四時まで

場 所 東京女子高等師範學校

講 師

一 幼兒の體育

東京女子高等師範學校教授

佐々木

等君

一 幼稚園に適切なる新遊戯(實習)

東京女子高等師範學校助教授

戸倉

ハル君

會 費 金貳圓五拾錢

宿泊及び申込の手續は六月號本紙を御覽下さい(汽車汽船五割引の豫定)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

小石川區大塚町三五

間隙なき至境



附屬幼稚園

かかせられてゐるのではない。

かかうとしてゐるのではない。

かかすにゐられなくなつて

たゞかいてゐるのである。

幼 児 の 教 育

昭 和 十 一 年 五 月

五 月

なんざいふすばらしい生育の力であらう。田に畑に、野に庭に、むくく
ミ萌え出る若芽の、伸びて伸びて伸びてゆく勢は、日に日に目を驚かすので
ある。

しかも、それに劣らないのは、園の子さも等の活力の伸長である。毎日そ
の中に俱に居ながらも、日々に新らしく目をみはらさせられるこさばかりで
ある。

伸ばそうこするばかりでなく、伸びるのを待つてゐるばかりでもなく、現
に目の前に斯うまで伸びゆくのを驚く心。——それが五月の心であり、また
教育の心でもある。

父母と保姆との協力

奈良女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主事

森川正雄

親が贅澤をして見せるから、子も慣れて贅澤家になる。親が平氣で嘘を言ふから、子もまねて嘘吐きになる。親が怒りつぼくて子が怒りつぼくなる。親が人のこみを聞いたら、いつでも嘲るから、子も亦冷嘲の癖を傳へられる。かういふ様に親の性癖を暗示し模倣さによつて傳へられて居る多くの子供があるが、又他方には親が性急で、命じた事を直にせぬ怒るから、子はいつでも口だけでは直に「ハイ」を答へておいて、さて實行は悠々とする。遅いではないかと思ひ置けば、何の彼の一言草で間に合はせる。かうして口實上手のごまかし家になる。子供を上品な人柄に躱げようさばかり思ひ過ぎ、婢僕からも遠ざからせ、お使にも、器物の持運びにも、來客の應待にも出さぬから、子供は他所でも自家でも、氣の利かぬ、無器用な、無愛想な超然主義者になつて仕舞ふ。俗流から超然として居るこいへば聞えはよいが實は一種の木偶漢である。子供のかやうな性格は模倣によつて出來たのでなく、子供がやむを得ず取つて居る環境適應の生活態度に外ならぬ。貧家の子女が貧のさげすみに奮激して學科の方に力を込め、級中の優等生になつて自ら慰めて居るのと同じ補償的方法である。かういふ場合には子供は親に似たものになり成らずに却つて反對のものになつて仕舞ふ。

新聞の三面記事は吾々に日々、多くの參考資料を供給する。親に似て惡化した子、親が嚴格過ぎるから子が陰で惡遊びをしたもの、子供が子供を裁判して危険に陥れたもの、母子の關係は濃かで死を共にするに、夫婦の間さ、父子の關係は至つて冷淡で父は何處に行つたか分からぬこいふもの等々、實に千種萬様である。

以上は唯、僅ばかりの例をあげたに過ぎぬが、要するに父母は自己の不完全から、幼児の性格形成の上に悪影響を與へて居るこの如何に多いかを悟得せねばならぬ。然るに世の多くの親達の態度はさうであるかと言ふに、只一途に子供の缺點を叱るだけである。尤も子が憎くてよくなく、可愛いから叱つて居るのであるが、併しその缺點の眞原因が何處にあるかに氣付かぬから、従つて、之を矯正する良手段にも思ひ及ばぬのである。

昔は『子を易^かへて教へた』と古い書物に見えて居るが是は親達が自分の性格、知識、才能の不十分なる事や、又親の慾目でさかく自分の子を高く見過ぎる事や、又親は愛が過ぎ、情に負けて、我が子の我儘をつひく許す事なきある爲に、互に『他人の子』として教へ合つたと思はれる。誠に賢明の態度と言はねばならぬ。

今の幼稚園は人の子を集めて教育する所である。此の古人の理想が最も能く實現され得る所だと言ふべきである。此處にては、専門の教育者たる保姆が父母に代つて幼児の保育に當るのである。此處にては、前に掲げた様な父母の缺點が補はれて、子供は良い模範をまねることが出来る。又好い環境が與へられるから、良い生活態度が現れ出づべく、良性格が形成せられるに適する。幼稚園の任務は家庭教育を補ふことを一要事として居るが、前述の點から考へても、能く家庭教育に貢献し得る可言へる。

併し、更に進んで考へねばならぬ事がある。それは保姆も亦、有限の存在者であるから、完全の人格者たらざることに於て、幼児の父母と同じ言はねばならぬ。固より専門の事柄については蘊蓄はあるにしても、自ら子を産み育てたさういふ經驗に於ては却つて幼児の父母を師として學ぶべき事があるであらう。それゆえに、父母と保姆とは互に緊密に相提携補助して幼児を保育せねばならぬのである。父母と保姆とは共に自己の弱點を省み、常に修養と研究に勵み、長短相補ひ以て幼児を善導せねばならぬ。かくして始めて幼児は安全に完成の道を進むことが出来るであらう。

保育の第一歩

山下 徳治

英語の原^{プリンシプル}理^{アルヘー}といふ言葉は、ギリシア語の第一歩^{アルヘー}といふ語源から變化、轉用せられた言はれてゐる。アルヘーは私共が何處かへ出掛ける場合に踏み出す第一歩のこゝを意味してゐる、それは私共が日常經驗において何時でも亦幾回さなく出會ふ、文字通りの意味の第一歩のこゝである。私はそのこゝを最初にはつきりさせておきたいから繰り返しこゝに言つておく。古い時代のプラトーンやアリストテレスからデカルト、カント、ヘーゲルを経て現代のベルグソンやフッサールに至る哲學は、すべてさきの原理についていろいろに解釋した學問のこゝを言つてゐるに過ぎない。そのこゝから考へるに「保育の第一歩」は保育の原理または保育の哲學と言つてもよさうである。然しこゝではこゝまでも、さきに述べたこゝろの文字通りの意味で「保育の第一歩」としての重要な問題について考へて行きたいと思ふ。なぜか言へば、現在の吾々の生活はさきに述べたやうな哲學なしに營まれてゐるからである。哲學のない人間の生活は、無軌道で進歩の不確かな、極めて不安で危険な生活であるには違ひない。それにも拘はらず吾々が哲學なしで生活してゐるのは、哲學が、吾々の日常生活の經驗から得た常識の眞の欲求や指導に役立たなくなつてゐるこゝが最大の原因である。社會は産業的にも、政治的にも、科學的にも進歩して來た。然るに哲學のみは依然アリストテレス哲學の新しい解釋や註解を益々繊細、微妙な仕方でも繰り返してゐるに過ぎないと思つても誤りではないと思ふ。それがよいか悪いかは知らないが、吾々の現實の生活は

さきの産業的、政治的、科學的推移は切つても切れない關係で結ばれてゐるので、傳統的な哲學は吾々の生活から愈々遊離して、生活を指導するこゝが最早や出来なくなつて滅びていくより外に路はないであらう。詳しい歴史的な事實からの抗議を抜きにして、たゞその結論だけを述べてゐるので實に口はばたいこゝを言つてゐるやうに聞えるかも知れないが、傳統的な哲學の維持者達の中で、時代を忠實に生きようゝ意志する人々の間からも既に哲學の改造は叫ばれ、新しい哲學が生れようゝしてゐる。たゞそれが非常に困難なのは、新しい時代の知識が古い傳統の知識を純化したものには違ひないが、その純化は過去のを過古のものゝしてではなく、現在の生活内容を豊富にするための純化である限り、現代の精神がたゞへ不確實ながらも蓋然的に分つてゐなければならぬ。こゝろが時代の精神が分るこゝは、何か特別の専門的知識からではなく、その時代に生きてゐる多くの人々の日常生活の經驗の中に、漸次に自然に養はれた常識こそ身を以て時代の精神を體驗してゐるのである。傳統的哲學やまた現在哲學の改造の必要を發見してゐる人々も、かゝる常識を哲學研究の對象にするこゝを欲しないため、またはそれに氣付いてゐないために、哲學の改造は非常に困難な路を辿つてゐる。常識の整頓されたものが哲學であり、さうした哲學でなければ、それは吾々にこゝつては無關係なもの、吾々の生活をよりよく變化させて、絶えず進歩させてくれる指導的意義——そこに哲學の任務がある——を失つて終ふ。生活のあるこゝろには必ず日常の經驗から生れた一聯の常識があり、その常識も現代のやうに通信、交通機關や、ラヂオや映畫等の文化的施設の發達した時代に當つては、即ち國際的な交渉が頻繁に行はれてゐるやうな時代には、相互的な影響を強力に受け合つてゐるので、單に國際的に廣汎な常識ゝなつてゐるこゝいふだけでなく、相互の理解、相互の發展、ひつくるめて言へば、眞の意味における社會的、發展のため重要性が増大してゐるのである。

然し最も重大なこゝで吾々自身の中に集喰つてゐる根本の考へ方から先づ替へて行かなければならぬこゝは、哲學ゝ

か、理論ミか、また一般に思想ミか言はれてゐるものは、それ自體が何も價值のあるものではなく、それらは生活經驗そのものから、生活の障礙を乗り越えるために、生活の陥り易い弊を矯めるために、生活を新しい環境に適應させるために生れて來たもので、謂はゞ生活を作り上げて行くための道具にしか過ぎない。吾々は理論を道具にして生活を築いていくのであるが、それは絶えざる繼續的な過程である。生活の前に立ち現れる障礙は、生活の變更、生活の新しい適應への刺戟であつて、夫故にこそ障礙が却つて進歩の機會ミなる。生活における實踐、行動、經驗等の名で呼ばれてゐるものこそ哲學や思想の母體であり、また經驗のみが障礙を絶えず打破しては、變更への新しい進歩を促進して未來への希望を與へるのである。經驗の變更の過程の一步、一步は、それによつて起る未來の變化がさうなるかといふことから條件づけられてゐる。その一步、一步は夫自身を完成させるためではなく、未來に影響あるものとして初めて深い意味をもつのである。即ち生活の哲學は原理から來たのではなく、生活經驗の中から、自己を進歩させるために生れたものだと言ふことをはつきり意識することが大切である。

そこで本論のテーマである「保育の第一歩」がどこまでも文字通りの意味でなければならぬミ力説してゐる理由である。

二

前節で述べたやうな考へ方から、保育者ミ保育兒ミの交渉關係を考へて見よう。或は保育者の保育兒に對する態度ミ言つた方がもつミ分りいゝかも知れない。保育者の多くは今でも古い哲學の考へ方ミ同じ誤謬を犯してゐるはしないかと思ふのである。師範型ミ同様に保母臭いといふ言葉で世間から評されてゐることその一つの現はれかと思ふのであるが、それが何に原因し、何處から來てゐるかを考へて見る必要がある。保育者ミ保育兒を比べるミ、なるほゞ保育者には多くの

經驗と學殖とがある。そこには保育兒の習慣養成の基礎となるべき道德的規範もあれば、保育兒の知性發達の基礎となるべき知識の論理的體系もある。この道德的規範や知的體系は各々の保育者の間では夫々深淺、廣狹の差はあるにしても、さうした一般的な規範や體系を所有してゐることが、保育者としての資格づけでもあるけれども、その規範や體系が恰かも政治において法律が個人に命令し、自然科学においては法則が個々の變化する諸事實を支配し、また哲學においては普遍的な原理が現象的な諸事實を制約するに考へられてゐるのと同じ意味で理解されてゐる場合が多い。そこから保育者が、保育兒に對する態度の中に、何時もはなしに、命令的な、支配的な、制約的な意識が忍び込んで來る。此の態度が教師臭いものにする最大の原因のやうに私は思ふ。かうした態度は二重の意味で教育的ではない。第一に、人間の存在は常に經驗や知識以上のもので、經驗や知識を所有したからきて、それだけで人間の全存在を置き替へらるべきものではない。従つて保育者が假令幼い經驗の少ない、知性の未發達な保育兒に對してども命令的、支配的、制約的態度に出ることは教育的ではない。このことは然し既に多くの人々の氣付いてゐることである。然しそれ以上に根本的なことは、法律や法則や原理は命令し、支配し、制約するものではなく、却つてそれらの一般的なものは個々の事實を説明するに役立つだけであるといふことである。例へば前節で説明したやうに、原理——究極の一定不變の存在者として考へられてゐた——が哲學の對象であるを考へるのは古い考へで、哲學の眞の對象は日常生活における個々の經驗であり、それを絶えず新しい思想系統へ構成していくのが哲學の仕事である。原理を對象と考へる限り、個々の諸事實は原理によつて支配され、原理に對して個々の諸事實は隨從するものにならざるを得ない。保育兒を支配することは保育兒の隨從を強要する結果になる。そのことは教育者である限り誰しも自ら欲しないことではあるけれども、傳統的な考へ方の殘滓をまだまだ多分にもつてゐる者には、自ら欲するに欲せざるに拘はらず不知不識の間に自ら陥つてゐるのである。このことは保育者が自己を完

成した人間を見るこゝに聯關してゐる。保育されたもの（この場合は保育者のこゝである）が保育する行動に先行して、既に完成された獨立者であるといふ傳統的な考へがそこに固執されてゐるのを見通すこゝは出來ない。その際保育の對象は保育兒でもなく保育者自身におかれてゐるといふ奇現象を呈する。保育研究の眞の對象が保育者でないこゝは自明であるが、今日一般に考へられてゐるやうに保育兒でもないのである。保育研究の眞の對象は、その日その日の保育活動でなければならぬ。保育兒を保育者は保育活動においてこそ緊密なる交渉が生ずるのである。従つて保育研究は、保育活動の觀察的、實驗的記録の組織であつて、それは保育學を名づけられてよいであらう。保育活動の觀察的、實驗的記録の統一化が保育研究の對象に代るならば、保育活動はさきの經驗と理論との比較において説明したやうに、絶えざる進歩が促進され、保育事業は未來に希望をもつものとなる。保育實踐のみが未來の希望について語り、保育事業の發展を精確に豫見し得るのである。日々の保育經驗を離れて未來を豫見するこゝは空想に過ぎない。かゝる保育活動が保育研究の眞の對象とならなかつたため、保育の實驗的研究も活潑に行はれなかつたのではないかと思ふのである。經驗の活々した姿はそれが實驗的であるこゝである。古い經驗に新しい經驗を結合せんとする單なる知的の作用ではなく、實驗的經驗は與へられたものを變更せんとする絶えざる努力である。またそれは推理に満ち満ちてゐる計劃によつて未知の世界を發見せんことを要求する。課題から課題への絶えざる進歩は經驗が實驗的に與へられるとき一層顯著である。保育活動が實驗的でなければならぬこゝは幾度強調しても強調したりない。

三

保育活動が特に實驗的でなければならぬ理由を他の角度から要求しておきたい。幼兒及び一般に兒童の知覺が、吾々の想像以上に恐ろしく鋭敏であるこゝは誰もが氣付いてゐるこゝである。この鋭敏な知覺は幼兒の精力的な活動となつて

表現される。ところがその指導は依然現在の成人の鈍感さ、表現の不確實さに導く外ない取扱ひを受けてゐる。幼児の知覚は多様な發展の可能性をもつてゐながら、その搖籃のなかにおいて既に悲劇的な結果が將來に約束されてゐる。表現技巧の正確なる指導は幼児であれば一層のこゝ重要な保育課題である。唱歌、遊戲、談話、觀察、手技等における指導を見るに、現在のこゝ未だ保育者のアマチュア的試み以上には出てゐないやうに思はれる。幼児の發育年齢に應じて指導する表現技巧の正確さには、夫々の段階において、幼児の心理發達からも亦技巧の難易から見ても一定の限度のあるこゝは勿論私自身認めてゐるのではあるけれども、一定の限度内での技巧表現の正確度は十分要求されなければならぬ。また一方からは知覚における表現技巧の正確さの要求は、知覚が特に兒童において驚くべき柔軟性、可塑性、暗示性をもつてゐるこゝから案外吾々が現在考へてゐる程度以上に高められるかも知れない。それにかゝる柔軟性、可塑性、暗示性がその發達の最も可能性の多い時代に指導せられない場合、それらの特質が漸次遲滯されまたは喪失、硬化されるこゝを吾々は恐れるのである。且つ幼児時代における正しい指導は、將來の發達の基礎であるばかりでなく、發達の可能な最大限度までの成長を達成し得ると思はれるので、これは保育研究上の極めて重要な中心的課題であると言ふのである。然し保育案構成上の材料だけでなく、保育者自身の技巧上の修練、幼児に要求される正確度の程度問題等の相關的研究の結果に俟つべきものが多いので、實驗的なる保育活動の共同研究によつて漸次にそれは解決さるべき問題である。實驗的保育經驗なしには、此の課題がいかに重要であつても、その成果を期待するこゝは出來ないのである。

私はこゝに最近私の深く感じてゐる二、三の問題を、可なり大膽に述べて來た。それだけに非常に大きい過誤を犯してゐるかも知れない。特に讀者の御叱正を乞ふ次第である。

兒童心理學文獻抄 十八

牛 島 義 友

子供の人物畫

書店。

「子供の繪」の本質に就て優れた説明が菅原先生によつて

併し簡単に兒童畫研究の狀態を知るには次の論文がよ

本誌に連載されたが、之に對して敢えて蛇足を加へるつも

い。

りではないが、此の問題に就ては非常に多くの研究がなさ

竹田俊雄、兒童の繪畫、岩波講座教育科學・第八冊、昭和

れて居り、吾が國の文獻のみでも數十に上つてゐる。故に

七年。

是等に就て簡単な紹介をする事にした。

先づ子供が如何なる繪を好んで描くかに就ては今田氏の

研究がある。

菅原先生の考察は兒童畫に就ての藝術學的考察と云ふ事も出來やうが、外山氏及び、檜崎・上阪氏の著書も此の方面

今田恵、幼兒の繪畫に關する研究、幼兒の興味、心理學
論文集第四輯、昭和八年。

の參考文獻である。

氏は全國百二十四の幼稚園に依頼して園兒に自由畫を描

外山卯三郎、兒童畫の藝術學的研究、建設社發行、昭和九年。

かせ、四千四百五十七枚の繪から考察して居る。此の中には實に色々の物が描かれて居り、二百二十五種類の事物を

檜崎淺太郎・上阪雅之助、子供の繪の觀方と育て方、藤井

舉げる事が出来る。之を二十三の項目にまぎめてその%を

示すに次の様になる。(同じ繪の中に數個の事物が描いてある場合には別々に計算する)。

(順位)	(種類)	(百分比)
1	形物	60.47
2	物物	38.09
3	物屋	35.69
4		34.28
5		30.22
6	家乘	22.35
7	天候氣象	19.78
8	天候氣象	17.38
9	天候氣象	10.95
10	天候氣象	8.23
11	天候氣象	6.57
12	天候氣象	6.26
13	天候氣象	5.00
14	天候氣象	4.82
15	天候氣象	3.97
16	天候氣象	3.93
17	天候氣象	2.74
18	天候氣象	2.54
19	天候氣象	1.57
20	天候氣象	0.67
21	天候氣象	0.67
22	天候氣象	0.63
23	天候氣象	0.52

性別によつて見れば、相當著しき差異が見られる。即ち乗物、家以外の建造物(土木的)、旗、武者、事件は男兒の興味を多く惹き、家屋、植物、家の設備道具、玩具(遊戯)、衣服、模様は著しく女兒に好んで描かれる。動物、天體、家の部分は多少女兒により多く好まれる。人、天候氣象、地形、公衆建築、文字數字、構圖は性別が殆んど表れない。之で見ると地形を別にする人物を書くものが最も多い。故にまづ人物畫に就て説明する。

青木誠四郎、兒童の人物畫についての發生的觀察、兒童研究所紀要第六卷。

東京市の幼稚園、小學校兒の描いた人物畫を發達的に見るに次のやうな段階を経てゐる。

一、錯畫期の人物畫、此の期では只不恰好な圓を描けばそれで人が描けたと云つて満足してゐる。

二、顔面興味時期、四、五歳から六歳の初めの時期で子供はまづ顔から描きはじめる。その顔にも段々分化が生じ、頭、眼、鼻、口等が描れて來る。併し體の他の部分例へば軀幹、手足等は只二本の線で現はされる位である。

三、四肢分岐の時期、六歳から七歳になるに描寫の興味は手足の方に向ひ、體と足とは別々に描かれて來る。即ち知能年齢五歳兒の中軀幹と四肢とが分れて居る者は二十二名の中十四名であるが、六歳兒では三十三名中二十八名となつて居る。手と足ではまづ足の方が先に分岐する。又手足の指等も描れる様になる。手を描く場合には手が頭から出るものと胴から出てゐるものがあるが前者は知能年齢の低い者に多い。又此の時期では顔面の方も一層精密にな

り、眉、鼻等も描かれる。

四、衣服描寫の時期、七歳から八歳に至り衣服が描れる様になる。此の衣服もはじめは觀念的に單に記しをつける程度であるが、後には帶、衣服の模様を描く様になる。

衣服なきもの	年齢	五歳	六歳	七歳	八歳
衣服あるもの	%	九一	六六	一三〇	〇
	%	九	三四	八七	一〇〇

尙その他身體各部の描寫の發達を見るに、口は最初は直線又は圓で現はされるが、後には一の形となる。眼は圓又は直線で描かれ、眉は早く描れるが、眼球はおくれる。頸は餘程後にならないと描かれない。

男女の區別は四肢分岐の時期では毛髮の有無で區別される丈であるが、衣服描寫期では着物の形、模様の差で現はして居る。

之を全く同様な研究が、三田谷・岩岡氏によつてなされて居る。此の方は關西の幼稚園兒に就て青木氏と同様な發達段階に分けて考察を深められて居る。

三田谷啓、岩岡園子、兒童の人物畫に就ての觀察、兒童

研究所紀要第十一卷、

尙小學生の人物畫に就ては筆者の研究がある。

牛島義友、兒童畫の發達について、兒童研究所紀要、第十四卷。

人の繪を描けり命ぜられた場合に完全な全身を描かず只顔面丈、半身丈を描くものが低學年に多い。即ち彼等は人間の特質を現はす重要な部分丈現はせば満足してゐるのである。所が小學上級では必ず全身を描き、又手には杖とか鐵砲とか袋を持つて繪の内容を豊かにして居る。此の事は體の各部分に就ても云はれる。低學年に於ては顔の各部分は比較的詳細に描くが、手足、指等は簡單な線で現はす丈であるが、上級なる體の一部分丈を特に詳細に表現する様な事は無くなり、身體各部が一樣に注意され、顔面と靴とは同等に取り扱はれて居る。

頭部を全身の大きさの割合を見ても同様な事が云はれる。低學年では頭は全身の三分の一位の長さを占めてゐるが、上級では全身の二割位に減ずる。

次に繪の輪廓線を見るに低學年のものは只體の部分を現

はしてゐるに止まるが、上級のものは形状を現はしてゐる。即ち前者は圓、四角形等で頭部、胴體を現はすが、その形は實際の體の形に似もつかぬものがある。それにも拘らず彼等は平氣でそれを許し敢て修正しやうとはしてゐない。之に反し高學年の者は實際の形を現はす事に腐心し、形が出来る迄は何度も描き直してゐる。従つてその描きぶりも低學年の様に奔放自在でなく、一本の線にも注意を拂ひ、をつくゞ従つて固苦しい形式なものとなり勝ちである。

以上の人物畫の變化を見るに知能の發達に應じて進歩して居る。故に兒童畫によつて幼兒の精神發達を計る企が米國のグッドエナフ女史によつてなされた。此の方法が吾が國に於ても數氏によつて適用されて居る。

桐原葆兒、自由畫テストとその規準(幼年兒童の精神發達査定尺度)昭和五年山越工作所。

同、自由畫による幼兒の精神發達測定、兒童研究所紀要第十三卷。

氏は中國地方の都會及び農村の幼稚園、小學兒童の三千

四百二名に白紙と鉛筆を與へ、男の人の繪を描かせた。此の繪を次の様に採點して行く。

A 何を描いたか不明のものは零點

B 次のものを描いてゐればそれ／＼一點宛を與へる。

- 1、頭、2、脚、3、腕、4 a、胴、4 b、胴の長さが幅より大なるもの、4 c 肩、5 a、腕脚の付方のやゝ正しいもの、5 b、腕脚が胴の正しい所につけられたもの、6 a、頸、6 b、頸の輪廓 7 a、眼、7 b、鼻、7 c、口、7 d 鼻口が輪廓あり唇二枚のもの、7 e、鼻孔、8 a、毛髮、8 b 毛髮が頭の輪廓以上に描かれてあること。9 a 衣服、9 b、衣服の標徴二個以上(帽子と帶等)9 c 衣服が透明畫でないこと。9 d 被服の標徴四個以上、9 e 不合理なく衣服の種類が描かれたもの、10 a 手指、10 b、指の數、10 c 指の細部、10 d 拇指の區別、10 e、掌、11 a、肩、腕の關節、11 b、脚の關節、12 a、頭の割合、12 b、腕の割合、12 c、脚の割合、12 d、足の割合、12 e、腕と脚とのつり合ひ、13、踵、14、描線、15 a、耳、15 b、耳の位置及大きさの正しきもの、16 a、眼の細部、16 b、瞳、16 c 眼の割

合、16 d、眼の向き、17 a、額及顎、17 b 顎の突出、18、横向き、以上の點を合計して其子供の得點とする。

次に各年齢に於ける得點の男女合計の平均を示す以下の如くなり、九歳までは殆んゞ直線的に進んで居り、それ以

年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12
得點	8.21	13.01	19.42	22.3	26.19	30.69	33.17	34.92	36.55

13 14

37.38 37.96

上は緩慢である。之を基として年齢基準を立て、あるが、併し此検査法は十三歳以上のものには適用されなく、且最も有効には七歳以下のものに適用される。此自由畫テストによる精神年齢、智能指數は相當信頼が出来る。何故ならば幼稚園児に一ヶ月間四ヶ月毎に繰返して検査した結果は相互の相關が非常に高く(〇・七以上)なつて居り、又他の精神検査(久保氏十一年法、ビネーシモン法)の相關も同じく高い。もつとも學業成績との相關は高學年生に於ては低い。

家庭の生活條件の影響(中間階級と労働階級との比較に

より)は著しくなく従つて此検査法は斯るものを超越して適用し得る事を示して居る。

尙卷末には採點の例を示し、智能指數の一覽表が加へられてある。

桐原氏と同様な研究をその他の人も企てゝゐて、此自由畫検査が智能検査として適當なる事を證して居る。

丸山良二、描畫による幼児の智能の測定、心理學論文集第一輯、昭和三年。

岩田艶子、描畫による幼児の智能測定、兒童研究所紀要、第十一卷。

去る五月一、二日の兩日は福岡市に於て中國、九州、四國保育聯盟總會が開催せられました。會員三百餘、熱心なる諸氏により、澤山の協議、研究の發表等がなされ非常な盛會でありました事は斯道の爲、洵に喜ばしいことと存じます。

尙その詳細は本誌次號にて發表せらるゝことと思ひます。

募
集
入
選
發
表

本誌新年號にて募集以來、多數應募いただきました童謡を、過日來研究部にて選衡いたしてをりましたが、入選作として左の如く發表するこゝになりました。

赤とんぼ

福島縣喜多方幼稚園

小原 すみ子

バツタと子供

同 右

赤とんぼ

青い空に

青い海

トンボがスイ〜

こんでゐる

青い空に

赤トンボ

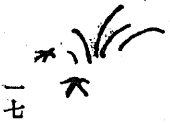
ヨットのやうに

こんでゐる



バッタと子供

バッタが飛んだ
おつかけろ
草のばっばに
かくれたよ
子供が恐いよ
かくれたよ



バツタが飛んだ

つかまへろ

そらく袋を

あげませう

バツタはにげた

かくれたよ



こどものお辨當

本校東京女高師家事科の教生が實習期間中、僅な日数ではあつたが子供のおべんとうの、主としてお菜について、銘々のをかきつけてゐた。それを左の様に表にして、それに簡単な批評を加へて教生日誌にかいてゐたので、何かの参考にもと思つたのでここにのせさせてもらふ事にした。

I	H	G	F	E	D	C	B	A	名 日
	付 碗豆、 野菜煮	干豆、 肉、梅 奈良漬	パン			野菜 メンチ ボール	ひき り肉 卵	お 豆	1
	ハム、 サンド イッチ	干豆、 卵、梅 焼	パン	パン		魚、 煮付 鮭	肉、 野菜入 いりこ		2
	のり まき		パン	卵 焼	ら おいもの 天ぷ	卵 焼	卵 まめ め	パン	3
パン		鶏 料理	パン	卵、 みかん	鶏 料理	鶏 料理			4
ジャム、 サンドイッチ	田 鉄の 煮付	卵、 サンドイ ッチ		お肉、 みかん	五 目飯	卵、 まぼ 煮付 焼	メンチ ボール	パン	5
ジャム、 サンドイッチ	青 碗豆 の子	卵、 サンドイ ッチ	卵、 肉そぼろ	パン	ソー ホー レン 草の バター メ	パン	卵、 まめ	鯛 めし (驛辨)	6
ジャム、 サンドイッチ	カ ツレツ	パン、 サンド イッチ	のり、 肉	野菜 サラダ	ジャ ガイ モ	コン ブ、 肉、 イカ の佃 煮		ト ース ト	7
ジャム、 サンドイッチ	卵 焼	卵 ジャム、 サンドイ ッチ	パン	パン	しら うを たまご	いり たまご	ジャ ガイ モフ ライ		8

X	W	V	T	S	R	Q	P	O	N	M	L	K	J
	チキンライス			パ ン	いりたまご	えび、おまめ	パン			パ ン (パタトースト)	ゆで卵		り 玉子、 やきの
肉、おまめ	チキンライス 玉子焼	パ ン		シホサケ、 シヤガイモ	パ ン	梅干 鱈の子 おいも	煮付 のり、 野菜の	パ ン	パ ン	いり、 御飯	の り		炒りごぼん、 ハム、ゴボウ、 卵やき
ゆで卵	パ ン	コンビーフ	パ ン	ちくわ煮付	青のり いりたまご	ちくわの煮付	パ ン	たくわん カツ、お	佃 煮	ト タ、 トース	ゆ で 卵		ビフライ、 コン 野菜
きのり、玉子や	チキンライス	いか、 味淋干	みそづけ、 ソーセイジ	焼肉、 いか	パ ン	五目めし、 玉子、 うなぎ	コロッケ	パ ン	パ ン	ライ ス、 カレ	パ ン	魚	玉子、 かまぼ 煮、 奈良漬
カツレツ	パ ン	カツレツの サ	みそづけ、 魚	パ ン	焼肉、 キャベ	カツレツ	豚肉、 キャベ	コンニャク、 野菜の煮付	鱈の子、 おいも	玉子、 豚カツ	ゆ で 卵	魚の子の煮付	
パン		野菜の煮付	パ ン	鱈の子、 おいも、 たくわん	ちくわ、 お豆、 おいも	パ ン	(食 パ ン 付)	草 根、 ホーレン	鱈の子、 百合	お赤飯、 おいも	ちくわ煮付	オムレツ、 か まぼこ	ゴマンホ、 ツマイモ、 カサ ツレツ
玉子やき	シュウマイ 草	オムレツ	パ ン	煮付 お豆、 ちくわ	パ ン	卵 焼	のり、 カツレ	卵焼、 鱈の子	ひき肉の煮付	鹽こぶ、 蓮と	カ ツ レ ツ の サ	福 神 漬	玉子やき、 肉
肉、タクワン	チキンライス 玉子やめ	シュウマイ	卵焼、 のり	鱈の子	煮 人蔘等 のくず	のり、 たまご	味付 御飯	サンドイッチ	わ シヤ ガイ モ	ぶ、 ゆで 卵	(ハ ゼ、 ア ミ)	カ ツ レ ツ	のり、 玉子

F、殆どパン、パンが好きなのかも知れないが甘いお菓子めいたパンばかりでなくて家でつくつたものゝ方がよいと思はれる。

J、お菜の取り合せなご毎日のお辨當に家庭で相當に注意を拂つてゐる様である。割合に小食である。

D、野菜ミ肉がいつも適當に配置されてゐた。いつも後迄残てゆっくり食へる。ソーセージが大好きな由である。

L、大抵持つてくるものが決つてゐる様である。

偏食になりはしないかと思ふ。時々お野菜なごも入つた方がよいと思ふ。

G、梅干ミ胡麻鹽がつきものであつたがお腹をわるくしてからパンになつた。家庭でつくつたサンドイッチミビスケットである。

H、野菜このりまきが大好きな由である。サンドイッチが野菜でなくハムの時はがっかりした様である。尚野菜のうち人蔘が一番好きなそうである。

W、ケッチャップの御飯が好きらしく、大抵それをもつて來た。

全體を通じて見てパンが相當ある様であつた。がやっぱり家庭で作つたお辨當やサンドイッチの方が嬉しいらしい。御飯のお菜ミしては卵が材料ミして大部分であつた。ごの家庭でも色々ミ氣をつけてゐることは分るが、欲を言へば取り合せにもう少し注意したいと思つた。例へば肉ミ卵、カッレツだけ、魚の卵だけの如く蛋白質にかたよつたり、或は澱粉質にかたよつたりする事が多い。もう少し野菜をミり入れたらよいと思ふ。

P 兒が櫻御飯をお菜なしで持て來たが夫はさうかと思つた。又パンの内でもチヨコレートの入つたパンだけ位ではあの發育盛りの子供には少々榮養が不足だらうと思つた。

私共にミつていつも楽しみな收穫期である夏休みがもう近付いてまゐりました。今夏は文部省主催の講習が東京に於て開催せられる筈になつてをります。参加御希望の方は今から地方廳にお申込み置きになり、いづれ詳細が發表せられる官報を御注意なさいませ。又本協會主催の講習は廣告を御らん下さいませ。お一人でも多數のおいでをお待ちしてをります。

心を開かせること

— 幼稚園と低學年の教育 —

倉 橋 惣 三

昨日一昨日の様なお天氣のよい日に、逝く春を思ひ乍らお濠端を歩いてこの講堂にお出でになり、一おざりおざつていらつしやるさいふ事は皆さんにまつて定めし愉快な事
でせう、ご勉強さいふよりお楽しみでした。今日は果して御勉強か否かテストするため、こんな悪いお天氣になつたのだと思ひますが。やつぱり御勉強でした。但し今度の御勉強の目的は遊戯の實習でありました。私の話はほんのついたりであります。その短い附録をここに問題の中心を置いてお話しだらうでせうか。

幼稚園と低學年の共通の問題として先づ考へられる事は、兩方共教育の始であるさいふことでありませう。そこで、教育の始はさういふ點にその重心を置いてゆくべきかとい

ふことが御一緒に考へたい問題になります。それを考へるにつきましたまづ教育さいふ事が、——今更こゝに説明する必要もありませんし、説明しやうさいふ思ひませんが、——色々に考へられるのであります。その一つは普通に考へられてゐる「教へるこゝ」、「つめ込むこゝ」、であります。こゝに角子供の心の中に何かを入れて行く事でありませう、これは教育の一つの大切な方面に相違ありません。こゝころが、その與へる、教へる、さいふこゝが幼い子供には不適當である。注入するのはよくないさいふ所からして、第二の考へ方が持ち出されてくる。それは教育さいふは押つけるこゝでなく、注ぎ込むのでなく、引ぱり出すこゝだといふのであります。英語で教育を Education といふのも、引張り出す

さいふ意味であるを説明したりする。この引出すさいふ事も勿論大切な事で、幼稚園低學年に於ては入れるより引出す教育の方がその年齢の子供に相應しいさいふこども申す迄もありません。

が、今日私が考へます事は、教育の極く始めに於きましては、押つける、與へるのでは勿論なく、引出すのでもなく、もう一つ別の意味があるさいふこどもです。引出すさいふ風に考へる方は新しい教育的の響がありますが、又考へてみますと、押つけられるのは勿論つらいでせうが、引出されるのも仲々苦しいものではないでせうか。咽喉へ手を入れて引ばり出す。まだく頭の中にあるだらうを引ばり出す。そんな目にあふのも仲々苦しい事だらうと思はれます。殊に皆さんのやうな、引出すのに熟練してゐられる方に逢つては子供はさてもつらいものでせう。引出されて仕舞つて、からになつてしまふかも知れない。子供が「今度の先生は押つけはしないが、しぼりやだよ。今日もすつかりしぼられてしまった」なんて言ふ。子供は引出し教育によつて、すつかりへトくになつてゐる。そこまでは出すまい

と思つてゐても、先生がなだめつ、すかしつ、すつかり出させてしまふので、子供はへトくになつて仕舞ふ事はありはせぬかと思ひます。そこで引出すのも加減ものださいふ事になります。それも年齢が大きくなり、不精になり切つてゐる我々に對してなら、引出すのも必要でせうが、あの小さい子供には、押つける教育が早すぎる様に、引出すのもまだ早いこゝだと思はれます。

○

そこで此二つのざれでもない第三の意味として、何を心がけたらいかを申しますと、引出すのでなく出口をあけてやる、さいふ事が大切ではないでせうか。吸出すのでなく口をあけてやるのです。口をあけてやれば出るものは出ます。之を言ひかへますと出やすくするのであります。

こゝ言ひますとそんな特別な手数をかけなくても、あの小さい子供はぐんぐん心のものを出してゐるではないかとも考へられます。或子供はそうでありませうが中にはそうでないものもある。或る性格の子供は自分の生活がらくに外に出かねるものもあります。或は又そうしむ

けられて、そんな状態に置かれてゐる子供もあるかも知れません。私は最近ある子供に逢つたのですが、この子供は半年程前に逢ひました。その時私はそのお母さんにこうして、色々注意をして置いたのでありますが、半年後の今日その子供が特にさうりこうになつたといふ事は無いのですが、さここなく心の蓋があき易くなつてゐるのを感じました。前には何さなく閉鎖的であつたのです。相當しつかりした處でありながら何だか閉ざされてゐるさここ感があつたが、今度は樂々さ開いてゐるのです、心の口があいてゐるさここ感でした。口があいてゐないさここ、心の中を出させるのに骨が折れます。が一度あきますさ樂に出る様になるのであります。

一般に、子供はさここ心のものを出ささここ事を言はれてゐるが、必ずしもさうは行かないのであります。それは大人にも、自分の心の中が樂に出る人さ出にくい人がある。出るけれど出さぬか意志や思慮によつて異ひますが、出やすいか否かの傾向の差は大人にもある。あの人はさうべらべら思ふ事を皆言ふわけではないが會つ

て見るさ何さなく心の開いてゐるさ思はれる人がある。又反對に、朗かさうで快活さうでる乍ら何さなく蓋のしてある様な、性格の根本に於て閉塞的な人があります。さう、外から判るのでなくさこも、自分でそれを自覺してゐて、自分の心がかさ樂に開いたらさ思ふのにさうしてこんなにかかないのかさ訴へる人もよくあります。勿論大人がさう開けつ放してもいけません、さここでは存分開けてもいさここいふ時にさへ開けきらぬ人があります。その時の妙な氣持はその人にも感ぜられる。さう大人が反省して考へる様にあの小さな子供が考へるわけではないが、心の中を開き得る幸福な子に較べて、開かない子供はさここにもさかしいだらうさ思ひます。樂にゆかれるものがつかへてゐる事を憐れに思ひます。

さここころで、もう一つ話を進めますさ、自分を自由に出す子供にもその出し方が色々あります、中にはへんな亂暴な出し方をしてゐるものもある。このフラスコ(卓上の)の水の出かたはさつさ出るのが正しいのであります。あの粗暴、亂暴な子供は心の中が順序よく出ないのでありませう。こ

う出方にも正しいか否かの二つがあります。又正しいか否かの他に何ぞ言ひますか出方の美しいのこ美しくないのであります。同じ水が流れてゐても美しい小川と汚い小川がある様に。その美しい出方と悪いのが問題であります。更に美しいか美しくないかの他に出し方のやはらかいか、ごつごつ出るかの區別もあります。このやはらかに、正しく、美しく出る事、それを色々考へるご又問題がごまかになつて来る。

○

大人になつて自分の心の中が素直に出にくい人達がよく自分は小さい時は出たのに大きくなつたら出なくなつたと言ふ。又先生に言ひかねた、親に言ひかねたと言ふ事があるご思ふ。先生は教へる事、與へる事引出す事は上手だが心を何ごなく開かせて呉れなかつたごいふごごもある。一體ごう言ふ開かない傾向には小さい時になるのであります。小さい時開いて貰つたものは出易くなるのであります。出させて貰ふのでなく出易くして貰ふのであります。ごう言ふ心の蓋を開けてやるごいふ事は幼稚園及低學年に於て心

掛けて行くべき事であるご思ふのであります。

○

幼稚園、低學年は畑を耕す様なものであります。畑を耕す事を或人はかたい土では種子が入らないから土を柔くして種子を蒔くのだご言ひます。然し種子を入れる爲に柔くするのではありません。いくら柔くしても、その中に種子を入れて蓋をしたのでは芽は出ません。耕すのは芽を出易くしてやる爲であります。心ある人は庭中を耕して芽が出易くしてやるかも知れません。人の心も同様に教へる爲に耕すのではなくて、中からのものが出易い様にしてやる爲にだごいつていゝでせう。

○

さてその心ごいふ事について更に考へてみます。心を大きく分けるご智ご感情の二つに分けられる。その中で智が容易く出る子供はきつご話を樂にするし、畫を樂にかき、或は製作を樂にするのです。都合によつたら出さなくてもよい點まで出す、が樂に言へる所を買つてやる必要がありません。それに對し、その言へない出さない子供はずん／＼

言へる子さ比べて氣の毒に思ふのであります。繪をかい
 てるのをみた時、その巧拙でなしによく心の中に浮ぶもの
 が書けるなごうらやましくなるのもあり、その技量のある
 なしでなくて腕をもち乍らかけない、表せないでゐるのも
 ある。保育項目の中の繪、お話さかでは智的の發表が樂に
 出るか否かをよく知る事が出来るものであります。低學年
 幼稚園で何故お話をさせるか、何故製作をさせるかといふ
 事はそれによつてこれを教へるのでない事は勿論でありま
 すが、あの様な方法で子供の心の中にあるものを引出さ
 うと言ふのでもなく書かうとしたらすぐその材料があり作ら
 うとすれば粘土がある事によつて、出さうとする時すぐ出
 せる様、心の蓋が段々開いてゆく様にするのであります。
 この意味で感情的の方を考へますと、それがそのまゝに出
 ますのはあのうたのふしであり、リズムであります。それ
 がすぐ唱へるのは蓋のあいてゐる人であります。小さい子
 供はよくすぐ唱ひます。唱ふ事が蓋の開いてゐる事である
 ならば、それをさせるのもその效のあることであります。
 唱はせることに依つて情操を養はうなごいふのではなく、

たゞきれいだと思ひ、いゝなと思ふ、思ふから自然に歌に
 なつて出るのを出るようになさせるのに過ぎないのでありま
 す。そして歌ふことによつて氣持が樂になります。私がお
 ざり度いと思ひ、運動のリズムにのつておざります。そ
 うするごおざる事に依つて自分が樂になります。この講習は
 遊戯を主としてゐます。皆様お壇端を通つていらして、お
 ざり度いなと思ひ乍らこゝにいらつしやる、そしておざつ
 ていゝ氣持になつたら樂であります。平常は幼兒をおざ
 らせる時は自らおざり度くて一ぱいでもおざれない。こゝ
 ならおざれます。それでさつきお楽しみでせうと言つたの
 です。私が外國へ行つた時船中で或牧師さん夫婦がダンス
 をしてゐました。私があなたのような眞面目の人がおざる
 のは變だといふ様な意味のこを言つてきゝましたら、そ
 の人は、おざるこゝに氣持になる、きれいな氣持になつて
 眠る事が出来ます、と言ひました。これはその人の中にあ
 るものがおざりの形になつて、おざりの形をかりて出るので
 あります。何故幼稚園及低學年で遊戯をさせるかを考へ
 ますと、すぐ或人は健康の爲さか、人格を高潔にする爲、

性情をよくする爲、或はおざりかた自身を上手にする爲に
か言ひます。教育者といふものはすぐによい効果をか
利益をかあげ様こします。そのために何んでもしつこ
くなります。情操を養ふのだから首はこまげてこか、歌
の意味をよく表してこか註文します。青年期のおざりや、
おざりを習ふ人ならこした註文もいゝでありませうが、
幼稚園や低學年ではそんなこより心の中が樂に出る様な
傾向をつけるものであるこ思ひます。

○

この意味から、即ち幼稚園及低學年の教育を、始めである
事からして最も簡単な意味で心を開く教育をすべきである
こ言ひ度いのであります。人間は世の中に出る様になれば
一そこのこ色々な事が邪魔になつて心が開けないもので
あります。何こも言へない變な性格になつてしまふのであ
ります。それで小さい時に心を開く傾向をつけるこいふ事
は最も大切な事であります。もう一度言ひますこ、心の中
を出させるのではなく、出し度い時に出るよ、にして置く
のであります。

○

これが幼稚園及低學年の教育に大切であるこすれば我々
は相手の心をそう樂に開かせ得る人でなければならぬわ
けであります。自分の存在に依つて相手の心が開ける様
なり度い。あの先生によつて心が開ける様になつたこいふ
風になり度いこ思ふのであります。こわく押つけるのでな
く、そうかこ言つて特別にチャージングなこ言ふのでもな
く、たゞ樂に心の蓋をあげられる様な、先生はそうありたい
のです。出せこも言はず、押込みもしない。春風のように、
吹くこもなく吹き、誘ふこもなく誘ふこいふよ、自然
に人の心をほさく事。これだけで非常な意味をもつこ思ふ
のであります。

そこで相手の心を開かせるにはさうしたらよいでせう
か。それには先づ、こちらの心が開けてるなければならま
せん。開けてるからこ言つて無暗におしやべりこ言ふの
ではありませぬ。いつでも心のまゝを出せる人、そんな傾
向の人が、相手の心をも開くであります。頭のよい人は
こもすれば自分の心を閉します。又修養に務めすぎる人は

大へん自分の心を閉したりします。青年の先生にはそんな人がよいこともありません。が、幼児教育にはそれではなりません。幼児を悶えさせる事も、自己統制させる事も必要ありません。心を開かせる事が必要なのであります。

この話は多分あんまり何でもないお話である爲皆様に却つてお判りにくかつたかと思ひます。なんだそれ丈でいゝのかさいふ御疑問がごこかにおありではないかと思ひます。然しそれ丈さいふ所が非常に難しいのであります。子供が私の處へ來た爲、何はなくとも心が開いた。御馳走はないが食べたい氣持になれたさいふ譯であります。ごころで、なぜこんな淡いごこに重きを置くかと言ひます、少し氣取つた言葉になりますが、これがあつて始めて子供に生活の喜びがあり得るからであります。生活の喜びは、思ふ事をそのまゝ樂に言ひ表せ、樂に出せる事に先づあります。少くもそこに生活の喜のものがあります。

幼稚園及低學年に於ける生活の第一歩は喜でなくてはなりません。その上に賢さも強さも大切であります。喜びを感じさせるごこが第一のもごだと思ふのであります。

す。皆様の子供達がこの意味に於て生活の喜を得てゐるか否か、時々さういふごこを考へて見ていたゞきたいと思ふのであります。(保育實習科同窓會主催幼稚園と低學年のための講習會講話筆記 文責在編輯部)

基督教幼稚園の日本にて創始

五十週年を迎ふ

今年是我基督教幼稚園の日本にて創始されてより五十年の記念すべき年に當ります。五十年云へば一世紀の半の歴史を経て來ました。

此の光輝ある年を機として世人の幼稚園に對する理解を深め、幼稚園教育の眞價を強調して、日本全國一齊に氣勢を揚げ、益々その使命の爲に邁進いたしたいと存じます。

茲に於て基督教保育聯盟は、全國九部會と共に提携し、各地に於て講演會により「ラヂオ」により、祝賀の心と共に益々我がキリスト教幼稚園の立場を確保し併せて幼稚園の重要性を世に呼びかけて五十年事業の一端をいたしたいと計畫しました。

基督教保育聯盟

『系統的保育案の實際』解説 (三)

生活訓練	倉橋 惣三
誘導保育案	菊池 ふじの
唱歌遊戯	村上 露子
談話	小島 その
觀察	新庄 よしこ
手技	小島 光子
	及川 ふみ

『系統的保育案の實際』は、東京女子高等師範學校附屬幼稚園の編になり、日本幼稚園協會から發行せられてゐる。

昨年七月以來、既に多大の部数が、全國保育界に普遍し、熱心なる保母諸君によつて、研究せられ又實施せられてゐる。しかも此の保育案は、舊來の諸保育案、殊に單なる羅列的保育案と全く異なり、幼稚園保育の本義に立脚して、幼兒の生活に出發し、生活に歸着する、生活系統としての新らしき保育案であるところから、その實施に於ても新らしい研究を必要とする。又、本保育案の各項に就て、尙ほ進んで詳細なる解説を求められることが尠なくない。

本稿は、それ等の要求に對して同人相促し、分擔して各項の解説を試みたものである。説いて詳細を盡さないのは素より、私案私説、極めて熟せざるところが多いのを恐れる。たゞ、保育案の表示のみには一層盡さざるを思ひ、これが理解を助け、實施上の便を加へ得んことを希ふてゐるのである。

尙ほ念のため附言するが、本保育案の本質的中心をなすものは、各項の内容よりも、保育案そのものゝ立て方にある。内容の選擇排列も亦、一々意を用ひたところであるが、保育案としての根本の建て前を離れては、保育としての活きたる意味が失はれる。従つて、『系統的保育案の實際』を絶えず傍に置かれることなくしては、本解説は正しき用をなすことを得ないであらう。

年少組、第一保育期

—満四歳から満五歳—

生活訓練

第九週

雨季に入る。外の生活が妨げられ勝ちになる。子ぎも達
みんなに外へ出たいこぎであらう。先生も、みんなにそ
うさせてやりたいこぎであらう。ミコころで、大降りの日には、
子ぎも、諦らめて部屋の中へ閉ぢこめられてゐる。時には
小さい顔が窓に列んで、スチープンソンではないが

雨がお庭に降つてゐる

滑り臺にも降つてゐる

ジャンブルジムにも降つてゐる

お山の上にも降つてゐる

ふき薄日が庭を斜めにさす。兩脚がまばらになつて來
る。小さいスチープンソン達が思はず小雨の中に飛び出す

のは斯ういふ時である。先生も大抵なら笑つて見てゐてや
りたい。が、ぬらしてはならぬ大切な子である。今日はい
いさしても、それが癖になられては始末がつき難くなる。
そこで「出ぬこぎ」にするのである。

これはこれだけのこぎである。大して深い道德的意義も
何もない。蛙幼稚園でないから已むを得ないだけの訓練事
項である。たゞ、こぎで一つ考へられるこぎは、訓練とし
て子ぎもの生活に禁を加へる場合、その多くの場合、子ぎ
もの氣にもなつてやりたいこぎである。先づ、子ぎもの氣
になつてかゝつてやりたいこぎである。前に、庭の草花の
こころでも言つた如く、さぞ取りたからうさいふ察しをも
ミにして、そこから出發させて、しかし取つてはいけない

さいふこじになるのである。小雨の庭に飛び出した心もちも、こころによつたら、小雨だから尚ほ飛び出したい心もちも、よく／＼察した上で止めるのでなくてはならない。そうでないま法律になる。お巡りさんになる。訓練ではなくなる。先生ではなくなる。こゝは訓練さいふこじに於て極めて大切なこじである。勿論、そんな察しを一々子ぎもに言ふ譯ではない。言ふのではないが、それは通ぜずにはるないのである。それが通じるまころに、訓練の眞の教育性が行はれるのである。つまり、すべての人間行爲が、實は相當の内部葛藤をもつてゐるものであるこじを、生かした上での禁令になるからである。たゞ禁止さへすればよい。禁止出来るさいふだけなら、子ぎもの手足を鎖につなげばいゝ。それは心をも、實に心をも鎖つなぎにするこじに他ならない。訓練でもなんでもありはしない。

扉の開閉を靜にするさいふ習慣は、實に生活そのこじに對する躰けである。トンミあけて、ドンミしめる。扉がこはれるばかりでなく、その室内の空氣がこはれる。水の中でそんな亂暴が行はれたら、水は掻きまはされて仕舞ふ。

水の波動のやうに、空氣の振動が見てないからこいつて、内部にそんな動搖を與へてはならない。中では友達が靜かに繪を描いてゐる。靜かにお話を聴いてゐる。時にはあの小さい哲學者が冥想に耽つてゐるかも知れない。あの小さい詩人がアネモネの紅い花瓣の散るのを悲しんでゐるかも知れない。扉はそつミあけ、そつミしめなければならぬ。こゝらが、小さい者に教へたい、生活のつゝましやかさである。

第十週

今日は晴れた。砂場は繁昌、大賑はひである。男の子の大活躍に對抗してではあるまいが、女の子達は大きく塵を敷いて、まゝこじに夢中である。――遊ぶだけ遊んで、後はそのまゝ歸つてゆかうミする子等のために、いつでも後かたづけをして下さる先生は優しい。「いゝんですよ。そうしてお置きなさい。後は片づけて上げますよ。なんこいゝ先生なんだらう。年に一二度は、そうした優しみを子ぎもにしてやりたい。「いゝの、先生。うちやいさいていゝの。片づけなくていゝの。――すみませんね先生……」

子ぎもは感じるだらう。但し、それは、平生自分達で片づけるこぎに習慣のつけられてゐる子ぎも達に限るこぎである。人に後片づけをさせて平氣でゐるやうな癖のついでゐる子ぎも達には、そんな氣は藥にしたくも起らない。此の際、訓練されてゐない子ぎもは、或るこぎを出来るようにされてゐないばかりではない、あたりまへのこぎを感じることが出来なくなつてゐる子ぎもである。

第十一週

こぎがまた空欄になつてゐる。無訓練週間にあらざるこぎは前にも言つた通り。しかし斯うして解説を試みてゐるこぎ、空欄を作つて置いたこぎが少し變にも感じられて来る。元來訓練の各週割當がそう嚴密なものでないから、時時空欄の週が出て不都合でない譯だが、空欄にして置く程嚴密にその週を考へなくとも、何かしらありやうなものにも考へられる。こぎ、これは私の獨りこぎである。さうぞ皆さんは、さし／＼此の空欄をいゝものでうめて下さい。

第十二週

抽斗の整理さいふこぎになつてゐるが、これは一體誰れへの注意かな。はつきして、自分の抽斗をあけて見て、更にはつきして、急いでその抽斗をしめて仕舞ふ先生が、この幼稚園にもお幾人かゝらつしやりやうである。勿論その數は幼児の數より少ないが。こころで、その人が自らおつしやるこぎには、「でも忙しいんですもの……」。たしかにそれに相違ない。しかし、さういへば、子ぎも達だつて忙しい。先生にこつてだけ、忙しいこぎが言ひ譯にはならない。そこで私は、そつぎその先生に、いゝ言ひ譯のしかたを教へてあげる。「子ぎもの時からその訓練がされてゐなかつたもんだから……」。勿論、今頃になつてこんなこぎを大きな聲でいへる譯のものではないが、小さい聲でそつさいふのなら、御尤もな理由でないこぎはない。そして、「だから皆さんは、小さい時からよく整理の癖をつけてお置きなさい」「さいふ言葉が、その下の句さして生きても來るだがないさいふもの。

幼児の方の抽斗さいふのは、多分機の抽斗ではない。ここの幼稚園でも、抽斗つきの重い机は一人々々に與へてあ

るまい。するまゝ、戸棚の抽斗であらう。それも、自ら整理するまゝあるからは、共通の抽斗ではなく、各自の抽斗であらう。私達の「銘々戸棚」をいつてゐるのがそれである。私達がその必要を言ひ出してから、今日では殆んど、まごの幼稚園でも行はれてゐるまごころの銘々戸棚である。そこで序に、この戸棚のまごを一寸申して置くが、これに二つの目的がある。第一には、自己の所有品をいふ觀念をもたせるまごである。第二には、その自己の所有品を自分で整理させるまごである。つまり、此の戸棚があるから整理をいふまごが起るのでなくて、整理の訓練のために此の戸棚が考へられたのである。従つて、整理の訓練がけられず、少くまごもその點に先生の注意が行き届かなければ、此の戸棚はその最初からの目的を達しないのである。極言す

れば、銘々勝手に亂雑にさせるまごになつて、却つて訓練上有害になる位である。但し、こゝに一つの重要な問題は、根が自己の所有觀に基いてのまごであるから、整理を整理としての純なまごでないまごころがないまごいへない。少くも、共同品に對する整理をいふまごゝ異つた實質を混じてゐる。そこで、一方、幼児の年齢に即して、自己の所有をいふ本能的な基礎によつて訓練してゆくまごに、そればかりでなく、共同の、言ひかへれば、自分の所有でないものに對しても整理習慣を併せ訓練するまごが必要であらう。但し、萬一その子が餘りに神經質で、潔癖をいふやうなまごころのある子であつたら、そこは少し加減を要するまごもあるかも知れない。

誘導保育案

第九週

水族館

汽車をテーマにした砂箱にももう魅力が無くなつたので、今度は別の計畫を立てる。

今でもはつきりと思出すが、この誘導保育案が吾が倉橋主事によつて提唱せられた時、保育實際家は一齊に疑議を持つたものだ、「理論としては誠に結構だが御園の様に手のある所ではなくては、御園の様に經費の豊かな所ではなくては、又御園の様に一組の幼児数が少くなくは、さては御園の様に理解ある父兄でなくては、私共、主事膝下の者でさへも、是等とは異つては居るがこの案の實施によつて起つて来る、或る問題を如何に解決したらよいか迷つたものだつた。この疑問は私共ばかりではなく、多勢の眞摯なる研究的な實際家も持たれたのであつた。即ち、この

案の實施に當つては、一齊に云ふ事が殆んどの場合出来ないし、又したくないのが當り前だし。その時に、仕事に携はつてゐない幼児をさうしよう、たゞうちやつて置いていゝであらうか云ふ問題である。私共もよくこの問題を持つて行つて先生に解決して下さいと迫つたものだった。でも先生はいつも、これに對してばかりではなく大抵の質問に對して暗示的な解決の緒口を一寸仄めかされる程度で、決して簡明直截的な解答を與へて下さらない。之は私共に、自分から考へ様にする力を與へ様との深慮からだと思つてゐる。それ以來この疑問が常に胸の中にあつて、折ある毎にちよ／＼頭を擡げる。そして半歳又半歳、いつの間にかおぼろげながらも自分なりの解決が出来てゐた處、去る三月末の及川保姆の「幼稚園保育の實際」云ふ題の御放送を伺つて、この解決が、はつきり確信つ

けられた。そして、この問題の解決には以外の途は無い
ミ今は思つてゐる。解決は、即ち、その時、その仕事に
携はつて居ない幼児は、危ふくない自由遊びか、然らずん
ば極く簡単な、幼児等が一人でも出来る様な自由畫ミか、
切紙ミかの保育項目を以つて補ふ事、ミ云ふ事である。こ
う言つてしまへば、いさも簡單で、さうしてあんなに迷つ
たかミ思ふ位であるが、半歳、一年位は迷つてゐた事はほ
んごうだ。

思へば及川保姆も熱心なるこの問題の質疑者であられ
た。仕事の參與にもれてゐる幼児があつてはならないし、
又一人々々の幼児の仕事の分量に多寡があつてはならない
ミのお考から、是等の事が一目で判る様な表まで案出せら
れた御熱心さであつた。

遂、筆がすべつて思はぬ事に走つてしまつた。この稿を
起すに當つて、私は子供等の手で出來た水族館を目に浮べ
ずには居られない。そしてこれが、都會の幼稚園でなく、
町の幼稚園で、更にまた村の託兒所ではミ考へて見た。ゆ
くりなくもそこに、乳呑子をおんぶした教育ミは縁の遠い

お母さんが立つて見てゐる様子が浮んで來る。このお母さ
んは、幼稚園でしてゐるこの仕事に對して反對を唱へるで
あらうかミ考へて見る。私にはこのお母さんは、こつといふ
風にして吾が子を遊ばせ向上させて下さる幼稚園に對して
感謝こそすれ、決してこれを悪い事だ、ミまでは考へなくミ
も、無用の事だミ思はぬだらうミ信ずる。では教育界ミ言ふ
ミ大げさだが、私共の最も厄介視してゐる、なまじインテリ
のお母さん、學校を批判し、學校をテストしてゐるインテリ
の、所謂教育に熱心だミ言ふお母さんをこの水族館の前に
立たせて見る。このお母さんだつて滿腔の讚意ミ感謝を表
はずだらう事は想像に難くない。事實、公私の保育事業に
携はつてゐる同志に聞いて見るに、初めの懸念ミは違つ
て、殆んどの親がこつといふ計畫に對して悦び感謝して居る
ミ云ふ事である。さもある事ミ思ふ。今までの幼稚園の様
に、保育項目の羅列ではなく、是等の各項目を一ツのテー
マによつて、意味づけ系統づけて行くミ云ふ意味合のもの
がこの案であつて、仕事の分量からしても、すつミ多くな
つて居るし、子供によるこばれ理解される統一した意味も

あるのであるから、誰が考へても反対の理由は立たないのである。私の只今受持つてゐる組の経験で言ふと、時々見に来られる親がある。そして「幼稚園ではいろいろの面白い御趣向がお出来になつて面白うございませぬ、子供が見に来い、見に来い」と申しますので……と挨拶される。又箱の動物をした時等、いゝ思ひ付きだに面白がつて下さる親御さんもあつたし、人形の家の時等、子供も面白からうけれども面白、今度は何が出来るか楽しみだ、等と言つて下さつて、朝、子供を送つて見えられて、小一時間程をぬひたり等眺めながら、子供等の絲のつなぎ等を手傳ひながら話して行かれる親御さんもあつた。今になつては、この案の實施に、疑問、反対を考へられる頭は無くなつたと思ふ。たゞ、不精になつた私共の身體が、こもするに安易を求めて、頭で考へる事を進捗させないで困るのである。と言つてもこの案の實行には、ではそれ程身體的な努力が必要かと言ふも、實はそうではないのである。私等、よくこんな事がある。一つの保育案が終りをつけて、次の案に移らうとする時、あの案は誰さんがなさつたし、この案は誰さんがこないだなさ

つたばかりだし、それをそのまま真似るのもあまり無能な話だ等とくだらぬ事にこだはつて、暫くの間心の中で何か新味は無いものかと思われこれ物色する。結局、大した新しいものも思ひ浮ばず、結局は前にされた事を繰り返す事になるのではあるが、何か一通りの理窟がついて納得がいくまでは、心の中で非常につらい、人目にはいかにも閑散な一日々々を過して居る様に見えるかは知れないけれど、心の中では實につらい思をして居るのである。漸く案が決まつた後のすがくい事、安心な事、丸で親舟にのつた様な心安さを感じて、それから、ひたすらにその案によつて仕事が進められて行くのである。

餘談が餘談を生んであてもなくうろついてしまつた。扱て本題には入らう。

第九週云へば六月、六月と言へばもう世の人も夏服に變へられて、木々は深緑りに深む頃だ、水の冷さも肌に快い時である。水きゆかりのある水族館、近く来る夏休みに行かうと聞かされて、楽しみにしてゐる海、縁のある水族館、子供等とびつたりする好主題であらうと思ふ。海に近

い地方では尙ほの事いゝテーマであらうし、海に遠く、海を見る事等到底も不可能の地方では、繪によつて、又はお話によつて、指導的意味でこれを進めて見るのも一策であらうと思ふ。

端的に水族館ミ命名してしまつたので、一寸説明をさせて頂かねばならない。水族館ミ言へば、誰しも同種の魚を一まきめにして一區ぎりの中に入れて置くのを思ふ。之が正しい水族館であらうけれども、幼稚園時代の子供に、例へば、ボラミ鮎の差を正しく認識させるばかりでなく尙且つそれを形の上に正確に表現させる言ふ事は、少し細か過ぎもしようし六ヶ敷過ぎる事でもあらうと思ふ。

只海の中のお魚さか、貝さか、子供に親しみのあるものを製作ミして表現させ、夫をあしらつて海の中の有様を表はして見る、ミ言ふ意味合のものミ御承知置き願ひ度い。水族館ミ云はずに何か簡単な呼名は無いものかと思つたのであつたが、遂慣例になれて水族館ミ命名してしまつた。扱て、觀念を植ゑ付ける第一順序ミして、適當の時を見計らつて子供等を自分のまわりに集める。そして、

「皆さんでこゝへ水族館を拵へて、中にみんなでお魚をしらへて下げませう、海に居るものを魚でも貝でも何でもいゝの、昆布もいゝし、わかめもいゝの」

ミ云つた工合の話をして、子供達の知つてゐる魚の名を言はせて黒板へ片假名で書く。カツナ、ヒラメ、カレイ、タイ、等ミ書いてる中に、ナマヅ、ドゼウ、ミ云ふ子があるかも知れない。こんな時、それは海の鹽辛い所に居ないで、川や池に居るものミ言つて區別してやる、そして淡水に住むさかなの名等、言はして見たり、言つてやつたりして少し差別して見せる。この板書したものは暫く消さずにこのまゝにして置く。

此間に枠の取付にかゝる。こゝの幼稚園では保育室の壁面ミ云へばボードの所なので、いつもボードへ木の枠をつける。背景を種々に出来るので都合もいゝので、この枠は幼児に支へてもらつたり、取り寄せてもらつたり、そんな事を手傳つて貰つて、大抵は先生がする事になる。體のいい活動的な幼児等は釘打つ事等大變に喜ぶので、手傳つて貰へる所があつたら大いに手傳つて貰ふ方がいゝと思ふ。

取付が出来たら、この枠にラシャ紙を貼るさか、塗料で塗るさかして、木の地そのまゝをむき出しにしない方がいゝ。

これの期待効果は

自然界に對する興味、取り立てゝ協同の製作をこする事によつて、今まで極く淡くしか持つてゐなかつた興味が、さだけ強められるかは、こゝにいふ事を實際にして見た方はよくお分りになると思ふ。兎も角も私共の豫期以上のもので、意外に云ふ感じがする。次の効果は

觀察、

手技、

繼續作業時間は四週間位。

第十週

魚

畫用紙を與へて子供達の好きな魚を描かせる。何の形だか分らないと思つてゐる間に、鱗がついて、脊鰓がついて、漸くお魚ださかなに合點の行く様な出来ばえ、面白い事である。クレヨンで、それ／＼色も塗られたら、之を切り抜かせる。先生が一人、一人のを糸をつけて

水族館の枠の中へ吊して上げる。糸は目立たない黒い糸を用ひ、頭部と尾と二ヶ所につけて吊す方が、重心の關係が樂にいく。この仕事には、觀察用として、魚介類の繪は是非備へて置かねばならぬ。

それから此主題を年少組に試みる場合は、おさかなの切り抜きは、片面だけにして置かうと思ふ。両面に色を塗らうとする子供もあるかも知れない。それはその希望に任せる。年長組の場合は切り抜いたお魚を型にしてもう一枚切り抜かせ、兩方貼り合せて立體的なお魚にする。此時折角描いた鱗が貼り合せて見たら、體の内側になつてしまふ事がよくある。こうならぬ様な工夫を年長組なるが故にさせて見るのもよいと思ふ。

第十一週

第十二週

これ丈では淋しいからもつゝ澤山拵へませうさか言つて、更に多くの魚を作らせたり、又岩いわ白模造紙、又はハトロン紙等に著色、中に種々なものを入れて岩らしくするををあしらつてやつたりするさ、拵へたいさ云ふものが殖えて來るかも知れない。

こんな風にして愈々完成させる。自分達丈で見てるる

唱歌遊戯

第九週

唱歌 一回

復習

遊戯 三回

ものまね(記事参照)

一回毎にリーダーが代るこゝによつて、子供達は随分變つた行動をするので、興味が相當長い時間つゞいて面白い。又そのリーダーになつた子供によつて模倣性の強い子供、創作力の強い子供、さういふ様な方面も種々わかつて面白い結果になる。

お友達(記事参照)

二人で手をこり、自由にさび廻るこの遊戯を大さう好む。お友達さいふ名の様に、元氣旺盛な男兒も、お友達さあまり交渉出来ない内氣な子供も、皆この可愛い遊戯に

のも惜しい氣持がしたら、他の組を御案内して見て戴く。

ひき入れられるこゝによつて何さなくお互同志の氣持よさを感じるらしい。

第十週

唱歌 二回

進軍(記事参照)

元氣よく兵隊さんが進軍する時の氣持を出してうたふ。トットトトットトット……さいふところは無理に歌詞ばかりを覚えさせ様とするさむづかしいので、曲に合はせて何回もラッパの調子を口づさむでるる中に、覺えられる様になる。

遊戯 二回

進軍(記事参照)

勇ましく、そして何さなく規律正しいさいつた様なスキリした氣分を出してしたいものである。はじめの踵、

をつけて出したりひつこめたりするところは殊にテキバキミ兵隊さんの気分を出してし度い。最後のスキップも長いのでみだれ勝ちであるが、前に進むこみより上に高く軽く喜んで、気分を出したいものである。

第十一週

唱歌 一回

水鐵砲(幼稚園唱歌)

ミヅヲタクサンクンデキテ：ミ古くからある唱歌だが簡單で子供によろこばれる歌である。一二三四シュツシュツシュツのまところは水のはしり出る様に力を入れて元氣にうたふ。

遊戲 三回

水鐵砲

よく知られてゐる遊戲なので振を記すのは省いたが、最後に水をかける動作をするところは、皆鐵砲の先を同じ方向に向けて、お窓の外にかけませう、ミか、誰さんにかけませう、ミいふ様にめあてのものをきめてするこ一層興味が出る。

お池(記事参照)

これも子供が各々好きな變つた動作をするので無理に制限されるこみなしに、面白く出来るものである。

第十二週

唱歌 二回

ミヅアソビ(エホンシャウカ)

涼しい木蔭にバケツを持ち出して、先生ミ作つた水鐵砲に水を入れてためてみるのも、暑いこの頃では先生にも子供にも楽しい一さきである。笹舟を作つてお池に浮かしてみるのも、汗を一ぱい出して力一ぱい遊んだ後の木蔭での先づ一息ミいつたまころである。こうした氣分を味はひ乍ら、このうたをうたふのも、本當にこの氣持をよくうたつて楽しむこみが出来るであらう。

遊戲 三回

ミヅアソビ(記事参照)

水を入れたり、かけたりする動作は自分達が實際にする様にすればよいので、型にはまつてしない方がよい。

ものまね

The image shows a musical score for a piece titled 'ものまね' (Imitation). The score is written in 2/4 time and consists of four systems of piano accompaniment. Each system has a treble and bass clef staff. The melody is primarily in the treble clef, with a steady eighth-note accompaniment in the bass clef. The key signature is one flat (B-flat major or D minor). The piece concludes with a double bar line at the end of the fourth system.

ものまね 三浦ヒロ氏振付
コードモノ遊ビ

準備 圓形を作る

1、第一小節より第八小節第一音まで
圓周にそつて元氣に行進する。

第七小節の終る頃に先生が皆に向
ひ、兎、象、お爺さん、兵隊さん、
おすもうさん……等何か真似をする
ものゝ名を一つ云ふ。

2、第八小節第二音よりおはりまで
皆は先生の云つたものゝまねをし乍
ら、やはり圓周にそつて行く。

そしてすぐに又第一小節から第八小
節まで真似をやめて元氣に行進す
る、そして次に又先生の云つたもの
の真似をする、こゝして何回もくり
かへして行ふ。

少し馴れて來たならば、先生は曲の

お友達



2.
3.



4.



5.



はじめに「誰々さん」を子供の名を云ふ、するにその云はれた子供は自分の好きなものゝ真似をする、他の子供はその子供のしたものの真似をする。一回終るに又次の曲のはじめに違つた子供の名を指す、今度はその子供が好きなものゝ真似をする、他の子供はその子供の真似をする、こうして一回毎に違ふ子供がリーダーとなり何回もつゞけられる。

お友達

準備 二人つゝ組み手を體の前につなぎ合はせる。自由な方向に進む。

1 第一小節より第四小節まで

二人手をつなぎ自由な方向にスキップで行く。第四小節で止る。

2 第五小節

二人手はまだはなさずつないだまゝで向ひ合ひ、お互の顔を見て、頭を右に傾ける。

3 第六小節

第五小節と同じ形にて頭を左に傾ける。

4 第七小節

二人向ひ合つたまゝの位置にて手を離し、拍手二回。

5 第八小節

手を後にのばし、右足を一步後にひく、爪先をつけるだけで體重は前の足にかゝる。

お友達



6 第九小節より第十二小節まで

1 に同じ。

7 第十三小節

2 に同じ。

8 第十四小節

3 に同じ。

9 第十五小節

4 に同じ。

10 第十六小節

5 に同じ

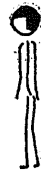
以上は何回でもくりかへして行ふ。

進軍

トトテ
トトテ
タタツ
タタツ



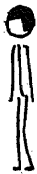
トトテ
トトテ
タタツ
タタツ



タタツ
タタツ
テ



タ
ト



進軍 戸倉ハル氏振付
大正幼年唱歌集

準備 圓形を作り圓周に沿つた方向に向く

一 トツトトツトツトツタツタテトタ

イ トツト

右足を一步前に出し踵だけつける、同時に両手を軽く握り、左手を斜前に右手を斜後にのばす。

ロ トツト

右足を元に戻し。兩足とも揃へる、同時に手も元に戻す。

ハ タツタ

左足を一步前に踵だけつけて出す、同時にやはり手を軽く握り右手を斜前に、左手を斜後にのばす。

ニ タ

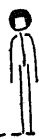
ウツシク



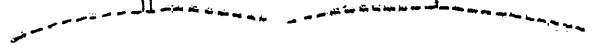
ハニケム



イ



シマサイハトオノパッラ



左足元に戻し、手も元に戻す。

テトテト

イ、ロ、に同じ。

タ

ハ、ニ、に同じ。

タツタタタツタトテトトタツタタツタタ

タツタタタツタは イ、ロ、に同じ。

トテトト はハ、ニ、に同じ。

タツタタタツタはイ、ロ、に同じ。

タはハ、ニ、に同じ。

ラッパノオトハイサマシイ

圓周に沿ひ元氣に行進する。そして最後に圓の中心に向き足を揃へて止る。

テセガラキラキ



ルベニサ



ニテテオ



テセサカピカピ



ムネニハ

中心に向つたまゝ、兩掌を肘ヒデをはり胸にあてる。この時五指を出来るだけひろげる。

クンシャウ

兩手を上にのばし、掌は五指をひろげたまゝ前にむける。

ヒカヒカサセテ

上にのばした兩手の掌を前、後、前、後、三動かす。やはり五指はひろげたまゝ。

オテテニ

左手を左腰のミどころに握り、サーベルを持つ様子を同時に右手はその左腰のサー

ベルの柄ツガにかける様子をする。

サーベル

右手でサーベルを抜き右上に高く上げる。

キラキラサセテ

ヨルクデマウオウァシイタラカトア



上に高くあげた右手を握つたまゝ、前後、前後、ミ、動かしてサーベルをキラ
キラさせる様子をする。

アトカラタイシャウオウマデクルヨ

右手高くサーベルを持つたまゝ元氣に歩く。

トツトトツトツトツタツタテトタ

タツタタツタテタトテトタトタ

両手を前にのびし軽く握り、手綱を持つて軽いスキップで行く。

お池 自由表現

圓形を作り、踞み、その中をお池とし、數人の子供が曲に合はせて蛙になつたり、あ
ひるになつたり、種々池の中をすきなものになりその様子をして、さんだり、はねた
り、泳いだりする。これは全くその子供の表現にまかせる。そして適宜に圓周の者ミ
交代する。

タトテトテ タツタツタトツトトトツト
ダトタトテ トタテトタツタタツタ



ミツアソビ

一シュツ シュツ シュツ シュツ ミツ ツチ ツバ ハウ
ニスー スー スー スー オモ ャブ ネ

アガツテ オハ ナシ ル ウ エ キ ニ オ チ ル
ホ カケ テ ハ シ ル ミ ツ キ ヲ ハ シ ル

タカ カク アガツテ ママ タ オ ケ ル
カセ カ ア タル ト タ ハ シ ル

ミツアソビ 戸倉ハル氏振付
エンホンシヤウカ

準備、圓形を作り内方を向く。

シュツシュツシュツミツデツボウ

踞むで圓の中心を向き、水鐵砲に水を入れる様子をす。左手を軽く握り鐵砲の下を持ち右手をやはり握り、柄を持ち、前後に動かして水を入れる。

アガツテオチルウエキニオチル

立つて、水を方々にかける様子をする。

タカク

中心を向いたまゝ兩手を上にのばす。

アガツテ

兩手を下におろす。

マタオチ

タカクの動作と同じ。

ル

アガツテと同じ。

スツスツスオモチャブネ

圓周に沿つて少し屈み腰で歩く、手は前にのばし掌を合はせて肘を曲げたりのをばしたりして舟が走る様子をしばらく歩く。

ホカケテ

圓周に沿つてこきざみに走る。手は上にのばし掌を合はせて帆の様にする。

ハシル

圓周に沿つて走る、手は下におろす。

ミツキツテハシル

ホカケテハシルと同じ。

カゼガアタルトマタハシル

手を上にのばし帆を作つたまゝ、圓周に沿つてずつこ走つて行く。

談話

第九週

三匹の熊

この年齢に最も相應しい代表的童話で、いぎりすの佳作。物の大きさの比較が可愛らしく語り運ばれてゐる。

兩手で大中小の大きさをあらはし乍ら話すのは勿論であるが、この話の性質上、繪で説明する方法をこる事もある。この繪本は、丸善から買ったものを使つてゐる。洋書と云つても説明はごく簡單なので、大ていの保姆さんなら、

こんなやさしい英語は何でもない。序ながら、繪本について一言。幼児の繪本も、いゝものが追々出來てゐるけれど、一枚の面の中にゴチャ／＼と説明畫のはいつてゐるのは感じも悪いし、混雜もする。色彩を鮮明にして、素淡な繪本を見せたい。この點、残念ながら外國の物には敵はない。クリスマス前には丸善に幼児向きのいゝものを澤山こり寄せてゐるので、行つて見るに私達の勉強にもなる。

舌切雀

人形芝居でも見たし、今迄に度々聞いて居るこゝでもあらうし、ミ云つても筋の運びが覺束ないものであるに違ひない。こちらから話しをしながら、知つてゐるこゝろは幼児に語らせ、又話してゆくさいふ形にする。

第十週

田原藤太

日本昔噺であるが、實在人物の武勇傳であるから、今迄の架空的のものに違つて、歴史はなしの始めこも心得られて、話してゐても自ら力がある。大蛇をまたぐ所なき、殊に男の子には興味があるらしい。

話の中で、矢を射る所が度々出て来る。

「藤太はかうして矢を射つたんですよ」ミ云つても、子供は一向平氣で聞いては呉れるが、さうも氣がひけて射る、さいふ言葉が使ひにくい。さうかミ云つて、矢を放したでは猶更可笑しい、或る時、

「藤太がね、矢を斯うして」ミ云つて、弓ミ矢を持った形で、みんなの顔を見廻した。しばらく無言のあきで、一人

が、「飛ばしたんでせう」ミ云つて呉れた。それから年少組に話す時にはいつも、矢を飛ばす、ミ云つてゐる。

同じこの話を、年少組の第三保育期に再び繰り返して見た。そしてこの翌日、さの位みんなの頭にはいつて居るものか、一人づゝに聞いて見た。この事は、幼児側の注意力、記憶力を試みるさいふより、むしろ反應を知つて、豫後に備へるでだての方が主であつたのである。

こゝに擧げるのはごくたゞしく、しい答のもので、勿論さの問ひに對しても十分返事の出來たのが、三十人に十人ばかりはあつた。

○昨日先生は、何かお話して上げたでせうか。誰のおはなしをしたでせう。

遊びに惹かれて、容易に返事の出來ぬもの、待つて、ね、一寸今、待つて、ね、ミ考へるもの、てんで思ひ出さないものあり、猫の話だつたミ、出たらめのあり、秀郷ヒメノのサトからおさ、さうの話だつたのよさいふあり。そこで更めて、田原藤太さいふ強い人のお話したでせうミ云へば、淡いながらもいろく思ひ出すようであつた。

○藤太が何を退治したでせうね。

むかひでをもぐらゐ。その外、この日の朝歌つた霜柱の唱歌と一緒にして、霜柱の目玉、風の目玉等の答あり、目玉は、百足の目玉話した爲の印象らしい。

○御褒美は何でしたつけ。

米俵と絹は大てい覺えてゐる。米俵をお醬油と云つたのもある。釣り鐘は解りにくく、正しく答へたもの二三。ハリガネ等と云ふ。

御褒美と云つたので、聞いた話を考へようともせず、すぐに勳章と云ひ、矢を鐵砲にしてしまつたのもある。

釣り鐘をハリガネ、秀郷をささ、と云ふやうに、實物を知らない時は、自分の知つて居るものに結びつけて解釋してしまつてゐる事は、この年齢に最も多い。この時期に話す談話材料が、特に筋の簡單な、言葉のむづかしく無いものをもつて來なければならぬ所以である。

表面の生活だけを見てゐるさ、かなり反應があつても、斯うして一人づつに當つて見るさ、さつぱり何の記憶もない子もあり、又思ひがけなく、筋の運びをはつきりつかん

で居て、見直す事がある。

幼稚園のお話であるからさて、いつもあはく風のようににごかに行つてしまふのも、あまり頼りない。と云つて、度々是れを行つては踏み外す惧れがある。三月に一度位は、聞いた話を幼児の口から云はせて見て、纏つた一つの筋を整理するこゝがあつてもいい。但し、手不足ではなかく出来ない、子供がすっかり慣れてから、お天氣がよく、みんなが外で遊んでゐる時、一寸お隣の先生に願つて見て頂いて居て、自分は室で一人づつきいて見るのも一案。

梅雨の話

勿論二三日つゞいて雨の降つてゐる日に。昨日も、一昨日も今日も、こんな雨ばかり降つてゐるでせう、と云つて、事實を知らせる。これだけで時間をさる程、委しくは言はれないから、外の話の前にするさか、お歸りの前、少し早目に支度して、共に雨を見ながら話す位。

第十一週

牛若丸

これも歴史的人物の武勇はなし。これが義經の子供の時
さいふこまは始めに云ふ必要なし。二つの名が出てくる
ま、二人の異つた人物を思ひ易い。あく迄も牛若丸で通し、
牛若時代の勇しい活躍を話す。最後にこの人が大きくなつ
てから義經さいふ大將になつたま軽く云つておく位。

第十二週

皇太后様の御事

観
察

第九週

金魚

金魚の出盛りになつた。夏の景物として第一のものであ
り、全體子供のものである金魚は幼稚園に是非飼つて置き
度い第一のものであらう。

金魚の家系圖をこゝで詳しく言ふ必要は全然ないが私共
はごく常識として知つてゐてもよい。鮎から人爲淘汰によ

六月二十五日は、御誕辰の日である、前日に話す。

天皇陛下のお母様であらせられる事、明日は、御誕生日
でお祝ひの式がある事等。當幼稚園では、特に行啓があつ
たので、よく話しておく。委しい事は年長組で。

七匹の仔山羊

少し長いけれど、今迄に繪本などで讀んだり、きいたり
してゐるので、もう話してもいゝ。

つて作られたものである事は周知の事である。

年長組まなれば金魚屋を見に行くま面白い、これは言
ふ迄もなく社會觀察としての意味が加はる事になる。そ
すれば金魚の種類も澤山見る事が出来る。

飼ふ容器はやはりガラス鉢であらう。大きさは適宜さい
ふより仕方がないが形は四角が無難であり、明瞭に見るに
都合がいゝ、而し丸い鉢に飼つて大きく見えたり形が變つ

て見えたりする光學的に言へる面白さも亦決しておろそかに出来ない、がこれは年長組であらう。

金魚を買つてくる。子供達は金魚々々大さわぎ、こゝでまづみんなに手やその他何でも入れない事を約束させる事が大事である。そして口、腮、ひれの動きを観察させる。

そしたら金魚鉢のそばへ自由畫帖をもつて來させてかゝせるも面白いし、鉢仕事としてさせてもよい。金魚の觀察は決してこれ丈けに止らず、毎日餌をやる毎に、水を取り替へる毎に親しみ深くされねばならぬ。そこで餌であるが、春夏秋の頃は少量づゝ與へ、冬は一週間か十日に一度位にするかづをぶしの粉、パンの粉、ふなぎ腐敗する程水のにごる程やらない事で、時々はぼうふらの様な餌もやるこよい。水も大抵一日一回位とりかへる。それも全部でなくサイフォンを利用なきして半分位づゝかへてやる。又水草や藻は多すぎぬ位に入れてやるもよいがこれを入れた時は特に寄生蟲に注意しなければならぬ。金魚が元氣がなくなつたならひれに注意して見るこ平たい「てふ」こいふ蟲がついてゐる事がよくある。その時はその金魚を別の小さな容れ

物にうすい鹽水を作つて放してやれば蟲はされる。金魚にうすい鹽水はよく效く藥である。大體こんな注意をすれば大てい冬も越す事が出来るであらう。飼ふ金魚の種類は美しいひれを喜ばうとするこ弱いものが多いから注意を要する。何と言つても和金が一番丈夫である。

魚類(繪による)

誘導保育案で水族館をこしらへる事からなされる觀察である。繪による觀察に於ける注意は乗物の場合こ同様であるが、こゝではもう少し分化的意味を含めてもよい。その意味から可成り科學的に完全な繪を見せ度い。それは動きのあるものであつたら(泳いでゐる處の様な、標本的でない)尙よい。そして淡水魚と鹽水魚の區別(嚴密には言へぬ場合もあるが)は相當に明らかにし度いものである。

第十週

びわ、さくらんぼ

塗りゑに觀察させて塗るのである。この様な食べられるものは餘程注意しないこあるこもが口へ入れてしまふ。入れさせ度くないものは一そうそこに充分氣をつけ度い。

これは色と数と形の観察である。

第十一週

ばら

ばらの垣根に一ぱい咲いたばら、一つ一つの花をそばへ寄つて香を樂しみ色をみせやう。小さいこの様な花を近づてぢつとみるこゝ、ゲーテの「荒野のばら」ではないが豊かな味ひのあるものである。その時同時にてんとう虫や蚜虫も観察させる事が出来る。

つばめ

雨上りの幼稚園の庭にぎうかしてすーつと二三羽のつばめが喜んで来た、皆が見てるでも、目にも止らぬ様に早い。これをぎうかしてはつきりに見せ様としてあせつたりせず、自然に機會を待つて見せればよい。繪なぎによつての概念的な観察はさけ度いものである。

第十二週

雨

こゝで始めて動植物でない自然観察が出てくる。雨の観

察……實に漠然としたものだと思はれるであらうが自然觀察といへば動植物に限るやうに考へられ勝ちであるがもつと身近な、こゝも言はれる氣象の變化に氣をつけ度いものである。事實、子供はぎうかするこぢつと空を眺めてゐる事がある。又ふと思ひついた様に「あの雲きれいだねなぎこ言ふ子供がある。いつであつたか」先生、富士山がさかさまに空を指して言ふので見るこゝ、青い空にはけ白い雲がちやうと富士山の形に浮んでゐた事があつた。こゝとした雲のゆきゝにも心をさめるゆゑこゝりが何かあつていゝと思はれる。

この意味で雨の觀察は面白い。吟誦で雨をきく時、さんさんとお庭の青葉にそゞろ雨を靜に眺めやう。何も説明しなくてもよい。子供も先生も自然に浮ぶ感興の、言葉があればそれはそれでいゝ。輪をかいて激しくそゞろ雨、それが流れてゆく様子、見てゐるこ面白くてしぶきにぬれるのも忘れるであらう。

雨が止めば生きかへつた様に光つた木の葉、まぶしい空、木や建物の濃いかげ、そんなものゝ感を、一寸注意する事は望ましい。たゞ「いゝ氣持ね」こ言つて空を仰いだだけで

もいゝと思ふ。「こんなに朝顔が伸びた」、「何の芽が伸びた」「こころしたものに寄せて雨上りの様子をよく感じる事

手 技

第九週

自由畫 ひなげし 一回

切り紙、ぬりゑ、なぎにて二三週前よりひなげしの觀察は幼児に度々くりかへされてゐるのであるから、自由畫としては容易に畫かれるのである。

粘土 いちご 一回

いちごを數粒落の葉なぎの上のせて幼児たちのテールのの上に用意する。幼児の觀察にまかせて、つくらせるのであるが、大體いちごの形をつくりヒゴや竹べラの先でボツボツ小さな穴をあけるこころを指導する。このいちごは乾かした後、エナメルや泥繪具をつけるときよい。粘土の色つけはどんな色でも最始白色にして、後にそのものゝ色をつける。

が出来る。

缺仕事 自在 一回

色紙だけ用意して幼児の自由につくらせる。

ぬりゑ ハナシヨウブ 一回

花菖蒲の實物を花瓶にさし、保育室におく。

製作 水族館の魚 二回

誘導保育案による水族館の製作

魚介類の繪本の觀察、魚屋の店頭にならぶ魚なぎの觀察、なぎ始めにして幼児自身に畫ける魚をかゝせる、自由畫をして始めはかゝせて、一尾一尾こしてはなして魚らしく畫かれる様になつてからこれをきりぬかせる。年少組の極めて簡單なものであるから一枚の紙に裏表ともにかゝせる。二三尾つゝでも出来たものより糸で吊す。

第十週

自由畫 かめ 一回

ぬりゑに、かめをし、又保育室内にかめを飼養してあるのであるからこれを見て、黒のクレヨンか或は毛筆でかゝせる。

粘土 かめ 一回

缺仕事 かめ 一回

黒の艶紙なごで切る。胴ま頭、手、足、なご別々に切つて、はり合せる。

ぬりゑ ビワトサクランボ

サクランボ、ビワの實物を用意しておいてそれを見てぬらせる、サクランボなご真赤になりたるものよりも色の交つたもの、うすみぎりの色ののこつてゐるものの方がよい。

製作 水族館 二回

前週よりのつゞきをつくる。

魚の色ぎり、大小の様子なご注意しながら次々製作

をすゝめてゆく

第十一週

自由畫 自在 二回

粘土 自動車 一回

ごく簡単な形の自動車をつくる。年長組の幼児の作品なごを参考にみせてもらふのも一方法である。

ぬりゑ デンくゝ蟲

製作 手さげかご 二回

畫用紙を材料として立體的の簡単なかごをつくる。摘み草なごを入れる。かごの外側はクレヨン、色鉛筆で模様をかき、又切り紙をはりつけてもよい。

製作 水族館の魚 二回

魚が大體出来れば海草、貝、かに、なご幼児に出来るものをつくらせる。幼児保姆の共同製作として岩をつくるのもよい岩は新聞紙を適當の形にして外側を糊ではりつけて、乾いた後で墨や繪具で岩の色をつける。

第十二週

粘土 自在 一回

デン／＼蟲 一回

デン／＼蟲は幼稚園の庭なきで見つけておく。粘土を板の上で両手でのばして細長くして、くる／＼まるくまき、葉柄やヒゴなきで眼をつくつて木の葉の上への

せる、粘土をはじめの前に幼児と一緒に園庭より木の葉、眼にする葉柄や小枝を見つけに歩く。

鈹仕事 自在 一回

模造紙の材料だけ與へて自由のものをきらせる。

ぬり絵 ウチワ 一回

ウチワの色は幼児の隨意にする。

年長組、第一保育期

—満五歳、満六歳—

生活訓練

第九週

年少組の時から、食事に就ては、いろ／＼又同じことも繰り返かへして、幾度びか考へて來た。しかし、どうもうまくゆかない。お辨當はうまいし、殊に年長組の六月さいへば、幼児として最も元氣な、従つておなかのよくすく、従つてお辨當の愈／＼うまくもあり、楽しくもある時だ。そ

のうまくてたまらないところから、作法の方はついで／＼うまくゆかないところにもよる。そこで、食事作法の中でも、食事中話をさせていゝかどうかさいふこは作法論そのものとして常に問題になつたりしてゐる。楽しく話をしつゝたべるのがいゝさいふ説き、だまつたべるべきださいふ説きが相對立したりする。勿論、隣間々々についていへば、

口に入れることゝ出すことゝ、兩方同時には出来ない。熱心にたべてゐる時はオヤミ思つたりする程靜かに、しんこしたりするものである。しかし、それはそれでいゝとして、作法の規則として、黙食主義が必ずしも絶對な話ではあるまい。若し、絶對的黙食主義をさるゝしたら、食事中の會話についての訓練なさいふことゝ初めから起つて來ない。

樂しく互に話しながら、ゆつくりたべるがいゝし、それが自然であるとして、それだから、平生の會話と違つた注意が、食事中の會話に必要な。口へ一ぱいつめ込んだまゝ、もぐもぐこしやへりつゞけて、御飯つぶを散亂させるに至つては、本人もさぞ苦しいことであらうし、作法として甚だよろしくない。つまり、たべる作用と、話す作用とを同時的に行しないで、繼時的に、上手に交替させて、食ひ且つ話すさいふ具合にさせることは、先づ大切な注意である。

それにしても又、話に興がはずみ過ぎるゝ、口の中のものや嚙まずに吞み込んで仕舞ふことゝもあり易い。そこで、此の場合、兎に角、食べることゝが第一なのであるから、

ゆつくり其方をすませて、おもむろに話すさいふ風に癖をつけたい。そのおもむろがむづかしいのであるが。——それには、先生が遠方にばかりゐないで、子供一人一人の前へ座をこつて、そこをよくしつけなければならぬ。家庭の食卓で母親がするやうに。先生自身、口をもぐつかせて、皆さん、よくお嚙みなさいなんて、くしやくゝ飯音を出したのでは駄目だ。

食事中の會話が、その内容の種類に就て注意を要することゝはいふまでもない。さつきね、あすこにね、こんな汚いものがあつたよ」なさいふことは大禁物である。政治の話、宗教の話は社交の禁物になつてゐるが、子ぎもにはその心配はあるまいから、先づ、きたない話をめめたらいゝであらう。そんなことゝはない筈だが、案外面白半分、思ひがけないことゝをいひ出すのが子ぎもである。

第十週

返事はいつも明瞭にさいふ注意は、二つの場合を豫想される。返事のいつでも不明瞭な、性質のぐすくした子。そういふのに對しては、此の訓練は性格訓練である。

ハイミイ、エ。西洋でいへば、ノーミイエス。この區別がはつきりしないのは、聲の出し方の弱さでなくて、心の弱さである。一番いけないことである。何事にも、一應、これをしつかり區別して、態度を明瞭にする習慣をつける必要が肝要である。大人になるに、そう單純にのみゆきかねることもあらう。ごちらごきめかねる複雑なことも多いし、又、自分でははつきりきめてゐても、相手や、傍の人に對し、そうはつきりさせない方がいゝ微妙な場合もあるであらう。子どもの時は、そんな心づかひはない。はつきりすればいゝ。それが出来ないのは性格上の一つの缺陷であらう。是非直してやりたい。幼児訓練項目中の最も大切なる一項目である。

次にそうした性格上の理由でなく、遊びに氣をまられてゐて、先生に對する返事なんか、いゝ加減にしてしまふ場合である。これは、可愛いゝこいへば可愛いゝことであるが、謂はゞ失禮なことである。呼びこめて、しつかり返事をさせるがよい。但し、面白い遊びを中斷させて返事をさせるのであるから、さうでもいゝ用や、後でもいゝことは、

先生の方が氣をきかさなくてはいけない。——ところが、こつういふ點に對して、先生ほび、無遠慮な人はないかも知れない。

第十一週

物を頼む時、その人の傍に来ていふ。これは確に作法でもあり、頼みも徹底する。たゞ之れ亦問題は、作業中忙しくて、つい、「一寸それを……」なんていふことになり易いのである。まあ、そこらは、先生の方でも察して、然るべくいふ處であらう。

第十二週

大分暑くなつて來た。日光の直射はよくないであらう。外へ出るには帽子を被ぶる習慣。これは簡單だが、先生は根氣よく注意する必要がある。

第九週

本校校舎 大型の箱を利用してよし、又厚紙で拵へてもよし。窓は切り開くのもあつていゝであらうし、又閉ぢてある所(薄ねすみ色の模造紙を長形に切つて貼る)があつてもいゝであらう。時々みんな本校校舎を正面から見直しては製作する。建物が大きく、したがつて窓の数も多く、裝飾等もあるので、丹念にみんなで代るゝ作らねば飽きる。

床に道路線を區劃する

今まで出来かゝつた家、出来上つた建物等、夫々の位置に配置はしてあつたが、まだはつきりした道路線が區劃されてゐなかつたから、この週あたりで線路、車道、人道、等區劃する。毎日通つてはゐながらも、いざ描かうとするこゝはつきり分つてゐる人が少いので、

又改めて門まで出て、みんなも一度見直す必要もあるであらう。鉛筆で下書して、その上を黒でなすらせる。

床に、ぢかに墨で描くのではなしに、大判のハトロ紙を更に數枚貼り合せて保育室半分位の大きさにして敷き、この上に家を並べるのである。又床ではあまり低過ぎるこゝ云ふ時には、保育室の半分に机をすつこり並べ、その上にハトロ紙を敷き、家々を並べてもいい。この案は場所が要るので幼稚園に依つては、適不適があるかも知れない。全體の大きさをすつこり縮少して試みられなければならないかも知れない。寒くなつて室内遊びが盛になり、保育室が一ぱいに使はねばならぬ季節には不適當と思つたので、こんな事も今學期に立案した原因の一つでもある。

背景を黒板に描く、背景を言ふ目的をよく言ひ含めた

にしても、子供達相互の描く繪であるから、傍を離れずに見てゐて、添削も必要であらうし、助言も、實際の手傳も與へなければならぬ。出來上つた後の子供達の悦びも亦格別である。

第十週

幼稚園々舎 やはり協同で、丹念に。
交叉點、シグナル 男の子等格別の興味を持つ。數人引率して、間近の仲町交叉點を見に行く。シグナルの製作には先生よりも男の兒の方が新案を發明する事が多い。

第十一週

護國寺 中まで細々拵へるのは、少し込み入り過ぎるので、あの門を、中のセイジ色の屋根の工合等を大ざつぱりに製作する、若し時間があつたらみんなで一日遊びに行つて、燈籠を段々境内の大きなものをボック／＼附加するのもよろしからう。

大塚驛 これは、この驛を通る數人の子で製作しやう。日に毎に觀察が深められ、議論が交される事であらう。併し

切符賣場、改札所等子供等の興味の焦點にあるので潑刺として製作をつゞける。

第十二週

省線電車 小型空箱に菱形のボール、車をつけ、窓を貼つて作られる。

大塚ガード、ガードたらしめる爲に、その兩側の高所、勾配等に特別の工夫を凝さねばならぬ。

今までも夫々に配置はしてあつたが、完成の上は、幼兒連と共に改めて吟味、配置をしやう。

完成したことは自分達だけでもこの上もなく嬉しい事ではあるが、尙ほ幼稚園の各室にもご案内して見て頂く、子供達の悦びは尙ほ一層満足する。かくして、出來上つたら、しばらくの間このまゝにして置く。

唱歌遊戯

第九週

唱歌 二回

笹舟(小學唱歌七十一曲集)

眼がいたくなる様な強い日光の下で、元氣一ぱい遊んだ後に、木蔭で笹舟を水に浮かしてゐる時の子供達の今迄の遊びは又變つた靜止の中にひたむきになつてゐるその様子。こんな時の氣分で出来るだけ靜かにうたひ度い。

遊戯 二回

笹舟(記事参照)

やはり靜かな氣分でしたいものだ。

第十週

唱歌 二回

小川(小學唱歌集)

雨の多いこの月は、さもすれば子供達は自分達の力の持つて行きどころがなくて困るこゝであらう。これを遊戯や唱歌ばかりでさうかうするさいふこゝは出來無いこゝだが、幾分でも靜かな落付いた時間も作つてやり度いものである。レコードをきくのもよいであらう、又元氣

一ぱいうたふ歌ばかりでなく、この小川の様いきれいな曲をきく乍ら、靜かにうたはざるを得ない様なものも大いに必要である。

遊戯 二回

復習 室内で遊ぶこゝが多いから競技を多くして殊に男兒を存分に遊ばせるこゝよい。

第十一週

唱歌 二回

キングヨ(エホンシャウカ)

お部屋の鉢の中を泳いでゐる金魚を、じつミ穴のあく程いつまでも子供達はみてゐる、休みなく泳いでゐるこの金魚を見乍ら、話し合つたりした後でこの歌をうたふのもよい。

遊戯 二回

飛行機(土川氏律動遊戯参照)

第十二週

唱歌 二回

水兵さん(佐々木英曲集参照)

元氣な水兵さんの氣分が出てゐて、子供達はきつミ大よろこびである。これは元氣にうたひ度い唱歌だ。

遊戯 二回

お洗濯(記事参照)

この頃の子供になるミ相當自分で創作するミいふ様な力が出て來はじめた時である。このお洗濯も、型にはめず各自の自由にさせる方がよい。

笹 舟 戸倉ハル氏振付
小學唱歌七十一曲集

準備 圓形を作り中心に向ふ。

ササブネ

中心に向つて屈み腰で三歩歩く、その時兩掌を體の前に揃へて上にむけ、そこに笹舟をのせて持つて行く。

ウカシテ

掌のせてゐた舟を水にそつミ浮かす。

アソビマセウ

拍手し乍ら後にさがり元の位置につく。

コカゼニ

中心を向いたまゝ圓周に沿つて、右に横ばしりにこきざみに數歩行く。その時兩手は上へのばし風に吹かれる様に次第に右に傾ける。

フカシテ

コカゼニミ同じ動作を左に行ふ。

ハシリマス

コカゼニフカシテミ同じ動作を行ふ。

スツス

圓周に沿つた方向に向き、圓周に沿つて體を前に屈めて

二歩歩く。この時両手は前にのばし、掌を合はせ、肘を曲げたりのばしたり二回行ふ。次のスッスーまで一呼間休む。

スッスー

前のスッスーと同じ。

ハシリマス

腰を出來るだけ屈め、こきざみに圓周に沿つて走る。この時上體と顔は圓の中心に向け、圓の内を走る舟を見乍ら、兩手は圓の内側の方に持つて行つて拍手し乍ら走る。

ササブネナガシテアソビマセウ

ササブネウカシテアソビマセウと同じ。

メダカヲマカシテハシリマス

圓周に沿つてこきざみに走る。兩手は體の前に掌を下にして揃へ、肘を曲げ、次に肘をのばし、手をすつこ前にのばし、次は手を横にひろげる。この動作をくりかへし乍ら、即ち、メダカが泳ぐ様子をし乍ら走る。

スッスー スッスー ハシリマス

一番のスッスー……と同じ。

お洗濯 三浦ヒロ氏振付
コドモノ遊ビ

準備 一列の圓形になる。

1 第一小節から第八小節まで。

洗濯物をかゝへて圓周の上を進み、第八小節目の終るまでに中心の方を向く、そして洗濯物を下に置くと同時に佇む。

2 次の第八小節間。

曲に合はせて洗濯をはじめ、動作は自由に行ふ。

3 次の八小節間。

絞り上げる。曲に合はせて自由に行ふ。

4 次の八小節間。

洗濯物をほす動作をする。

5 次の八小節間。

洗濯物の乾く間休息する動作を行ふ。話し合つたり、あみものをしたり、本を讀んだり云ふ様に。

6 次の八小節間。

洗濯物の乾いたのをまりはずして入物に入れる。

7 次の八小節間。

お洗濯

入物をかゝへて歸る。圓周に沿つて進む。

最後の小節の時人物を下に置く。

8 次の八小節間。

洗濯物をひろげて、アイロンをかける。

9 次の八小節間。

洗濯物をたゝむ。

10 次の八小節間。

抽斗を開けて洗濯物を入れても通りにする。

曲全體を五回りかへすことになり。一小節を二拍子にかぞへる。

第九週

庭の大銀杏について

廣い庭を隔て、眞向ひに、大銀杏が樹つてゐる。樹齡幾百年といふこの古木は、幼児を瞰下ろして、絶えず無言詩をなげかけてゐてくれる。春秋いつでもいいが、老木でありながら、再生の力つよさを見せる新緑のこの頃は、是非注意ぶかく見せておきたい。秋にもなれば、ほろ／＼と銀杏が拾ひきれない程落ちて来て、親しみも深くなる。枝や葉の端的な見方と共に、ほのかながら全容から受ける靈感も味はせたい。それには先生が一緒にこの氣持で、絶えずこの大木の變化に氣をつけてゐて、幼児に話しかけておくようにする。

第十週

ハンスの馬鹿

不思議な力を持つてゐるハンス馬鹿のはなし。グリムの中に度々出てくるこの主人公の名は、いつでも不思議な力を持つてゐる。變化があつて面白い。

第十一週

河馬の手紙

大きい河馬の寫眞を貼つておいて、この手紙を讀んで聞かせる。動物の中でも特に興味の對照であるから、この手紙で河馬の生活を知らせる。

皇太后様の御事

當幼稚園には嘗て行啓遊ばされてゐるので、年長組にもなれば式の前日に話しておく位では無く、二三日前に相當の時間をまつて、話してきかせる。幼稚園の各保育室を御巡覽になつた話。新聞の切抜きも、藏つてあるから見せたりする。

第十二週

魔法の泉

靴屋の出世

何れもイタリー童話。イタリー童話で内容の面白いのは、かなり筋が複雑なので、年少組には使はれなかつた。そろく幼児も、簡単な面白さや、語音の弾力性なまじけでは満足してゐない。説明の出来ない不思議な力なきに驚

観 察

第九週

金魚屋、金魚は年少組参照。

金魚藻

金魚を見乍ら、金魚鉢に入れてある植物について同時に観察させる。土に生えてゐる草もちがふ處を注意する。

ぼうふら

金魚にやる爲に水溜りからすくつて來たぼうふらが又きても面白い観察の材料である。形、動き、それが變態の順

異の目を瞪る。靴屋の出世では、お化けが出て來る。けれども年長組になつたさいふほこりのもみに、お化けなんかさいふ氣で却つて面白がる。この靴屋が誠に大膽で、お化けが多勢出て來ても一向平氣で、お化けの方が、その威力に敗けてしまふさいふ筋は、話の性質そのものがよく出來てゐるので話してゐても愉快である。

序、時期によつてちがつてゐて面白い。

めだか

月曜日の朝一人の男兒が昨日郊外に行つて掬つて來たさびんに入れてもつて來ためだかをさつそく金魚鉢に入れてやる。小さくて口の尖つて上を向いた目の大きいおさけた魚は一ぺんに保育室の籠兒になる。同じお魚でも金魚さずる分違ふ事はよく判る。そこで比較観察させる。同じ所を言はせて見るのも面白いこゝである。目高でも緋目高白目

高等は觀賞用變種である。

第十週

あぢさる

梅雨の頃にふさわしいこの花は幼稚園のお庭の隅に一本でもあるさよい。昔の人はこの花の色は七度かはる言つたが青白いさき始めの色から注意して見るにその變化が面白い。一つ一つの花の形よりも全體として色を樂しむ見方をするのでよいであらう。

蝶、蛾

この頃の蟲の王座を占める蝶はこども達にも實に親しみ深いものである。それでも明瞭にした形をみてゐるこどもも、少い。幼稚園に飛んでくる蝶の種類は大體次のやうなものであらう。

もんしろてふ、きてふ、くろあげは　　すぐぐるてふ　　き

あげは　しじみてふ　もんきてふ　　あげはてふ　　からす

あげは

蝶の觀察はさうかするに先走つて理科教授になり

易い第一のものかも知れない。これを吳々も注意し度い。

殊更に標本箱に入つた蝶なご見せないこゝであるがそれがあればみせたつていゝ、その場合は額の繪の様にみせるのである。幼児にむかつてのこの種の觀察はあくまで動きをみるこゝである。飛んでゐる蝶、止つてゐる蝶、蜜を吸つてゐる蝶、それでも靜に注意してみるこゝである。つかまへたら一度はみんな注意して觸角、足、その數、體の様子、翅、その色、數、そして翅をいぢるまじつく粉、即鱗片（これは口へ入れぬ様注意するこゝ）等次々にみやう。

毛蟲を飼つたらまゆをつくつた、そして幾日かたつた或日蛾がまゆから出て來たこゝで毛蟲からつゞいて觀察させて行く。出て來るものが何であるかと思つてゐたら毛蟲からこんなものになつたさよ驚きであらう。蝶ではないこゝ（蝶でない場合は簡單に注意すべきでそれは止り方にさよめて置く位でいゝと思はれる。これも決して理科教授にならない様、こゝしたものに細く注意をむけ驚異を感じるやうにさよ氣持でしむけて行きたい。

小鳥の孵化

卵をあたゝめてゐるのをみつめて、毎日小鳥小屋を見舞

つてゐたのがかへつた事を知つた日子供達の喜びさいはうか、ふしぎさの多分なうれしさは想像以上であらう。まだ目もあかず羽毛もないうごめくものが母鳥のおなかの下にあるのを伸び上つたりしやがんだりしてみてるのはたゞそのみでいゝのであらう。たゞちつともそれを知らないでゐる子供のない様にここにこの時分相當武勇傳をもつてゐる男兒なごきは一しよにみたいものである。そして日毎に目があき羽毛がはえるのを、母鳥がごうやつて育てるか食物を與へる様子なご静にみたい。雀の子の唱歌がこゝで一そうやさしく思ひ出される。そしていよく巢立つ時は又新な喜びで、成長した小鳥を小鳥のやうなごきも達が眺めるごきである。

第十一週

かみきりむしその他

蟲の出盛りになる。蝶や蜂やあぶや、その他の昆虫類が花壇にもお山にも一ぱいに初夏を謳歌してゐる。

それ等がどんな蟲であり、何こいふ名だかを知らん顔して過してしまへば何でもないごきであり、面倒でもないで

あらう。けれど一度よくみ、調べてみたらさても面白くて黙過するのがかへつて苦痛になる。子供達はみたく、知りたい。先に立つてこれは何のむしでこんな色だ、こんなものがある、強さうな足だな、何でもかめさうな大きな口だ、おや、この眼は不思議、さいふ様に子供の興味を指示してやり度い。つかまへた蟲はこうしてみる事によつてかへつていぢめられもしないであらう、又若し不都合な蟲の場合には一そう好いであらう。

藤の實

先頃あんなにきれいに咲いてゐた藤がいつか散つて緑の濃いかげをつくつてゐる藤棚の下に行つてみた時、なつてゐる、實が花をみた時舟のやうな形だつた所がこの實になつたごきはごきも達はおぼえてはゐないかも知れない。ごきに角花の咲いたあまに出來た事は知つてゐてもよいと思ふが、まだく大きくなるごき、大きくなつたらさつてもいいけれど今はさらないごき、毎日のように、雨のふる度に、大きくなるのをみてゐませうさいふごきを話してこつた實の成長をも楽しむのもよいごきであらう。

護國寺

幼稚園に一番近い、森のある、何だか行つてみたい所である。本校からは緑色に錆びた大きな屋根がみえるし、植物園さもちがひ、動物園さもちがひ、原っぱさもちがひつて何だかみたい所である。年長組にもなればこの位の距離なら行つてみたらよい。園外保育である。園外保育としての諸注意やねらひ所なき事新しくのべる必要はないと思ふ。唯ここはお寺であること、國寶さもちがひつてゐる古い建物があること

手
技

第九週

自由畫 一回

保育室の黒板に町の背景護國寺の森をかゝせる

ぬりゑ アヤメ 一回

實物があれば保育室におき、實物がなければぬつたものを見せる

製作 本校々舎 三回

こ、尊い方々の御墓所のあること。それを拜しそれをみなぎすること、子供達に一種の宗教的な言つては大げさであるがそんな深嚴な感情を起させる所として一度は行つてみたい所である。

第十二週

年少組参照

ボール紙で本校々舎をつくる、箱の家の形につくる、三階建に窓をつけ、ドアなきもつける。窓はくりぬいてもよいし、又別の色の紙をはりつけてもよい。

第十週

自由畫 テーブル掛へかく

デパートなきの包紙に大きく周圍に模様をかゝせる。

大なるものに畫く調子をわからせてからテーブル掛に

かかせる。

一枚のテーブル掛を一度に仕上げずに数度にかき、数人の幼児交代にかきて共同合作する

製作 幼稚園々舎 三回

交叉點のシグナル 一回

幼稚園々舎は本校の建物より低くして、箱の家にする。窓、ドアのつくり方は本校同様にする。

交叉點のシグナル、止し、注意、進メの色わけの丸をきりぬきてつくる。柱は停留場、電柱なぎのつくり方

ミ略々同様

第十一週

自由畫 自在 三回

鈇仕事 金魚 一回

ぬりゑ キシャ 一回

製作つゞき 三回

護國寺

省線大塚驛

護國寺、大塚驛はボールの空箱を利用してつくる

きせかへ 人形 一回

人形の形に合せて洋服、和服をつくり、畫用紙に模様をかき、或は千代紙なぎの模様のある紙にて作りても

よい。

第十二週

自由畫 自在 一回

鈇仕事 百合 一回

百合の花を見てきらせる

粘土 自在 一回

ぬりゑ ヨット 一回

製作つゞき 三回

大塚驛ガード

省線電車

大塚ガードはボール紙で、省線電車はボールの空箱でつくる

きせかへ人形 一回

前週のつゞき

著名園稚幼の書圖洋東

好評八版
東京女高師教授
附屬幼稚園主事
倉橋惣三先生著

四六判美本
口繪多數入
定價二圓五十錢
送料十六錢

幼稚園保育法と眞諦

▲著者は我國保育界の耆宿、本書は現代に於ける最も完備し且系統ある保育原論の眞諦を懇述。優美なる新保育法の實景を多數掲載せる最精最良の保育參考書。

【版三】
東京女高師教授
倉橋惣三先生
新庄よしこ先生
共著

日本幼稚園史

菊判三三頁
價三、八〇
送〇、一八

苦心二十年の結晶完成、日本幼稚園史として比類なし。歴代皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔である。

【版七十】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の理論及實際

菊判三三頁
價三、〇〇
送〇、一八

保姆檢定唯一の最良參考書、幼稚園書の王。内外の實際古今の理想悉く一卷に收められ、理論的形態完璧にて些の遺憾なし。

【版六】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の經營

菊判三三頁
價二、八〇
送〇、一六

嬰幼兒要目・保育要目・標準施設・時間配當・託兒所經營等の重要問題を解決明示し、更に經營概論・保育諸問題等々懇説す。

【版三】
東京女高師教授
附屬幼稚園主事
堀七藏先生著

幼稚園保育の諸問題

菊判三三頁
價二、八〇
送〇、一六

幼稚園經營並に保育實際に關する理論と實際の諸問題解決。小學校との連絡問題に付懇説。又保育實際に理論付けらる。

【版八】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

保姆教育學

菊判二二頁
價二、八〇
送〇、一六

保姆檢定試驗規則による1教育2兒童心理3教授法4管理法の大意を網羅せる保姆必須書。各府縣檢定指定の唯一參考書。

【版六】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園保育兒法

菊判二二頁
價二、〇〇
送〇、一二

育兒法は保姆資格試験の必須科目で、本書は其の唯一參考書。保姆養成所教科書。附録に健康保險法種痘法等掲載し懇切を盡す。

東大 東市 神田 區 神安 堂 保 町 一 目 東 京 振 替 一〇三〇七番 發 兌 東 洋 圖 書 株 式 合 資 會 社 大 阪 市 南 區 一 町 一 目 振 替 九 五 五 番 七 番

新期御豫算の御按配に

「あれも一臺備へたい」この思召には、兎も角も弊館へ一應御相談下さいませ。

工手間も設備費も、割安、且つ能率的、而も、永久の御使用に耐える御施設を、御豫算の範圍に於て完う致すこと、約三十年に垂んみする弊館の経験に徴して可能であり、また内外の幼稚園より御好評を頂いてゐる所以でもあります。

- ◇波 動 廻 轉 塔 八〇圓
- ◇波 動 廻 轉 馬(新發賣) 六五圓
- ◇子 供 の 家(社會遊び) 八七圓
- ◇ス モ ー ル ・ セ ッ ト 三二圓
- ◇人形芝居一揃(背景人形共) 五〇圓
- ◇大型二十人乗シスター 七〇圓
- ◇梓 の ぼ り 一一五圓

- ◇コンピネーション運動具 八五圓
 - ◇樂隊遊び用樂器一揃 一八圓
 - ◇太 鼓 梯 子 四〇圓
 - ◇鐵製二人乗ぶらんこ 五三圓
 - ◇大 型 鐵 製 滑 臺 七五圓
 - ◇箱 積 木 一八〇圓
- (其他種々取揃へて御座います)

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回十五日發行)

昭和十一年五月十三日印刷納本
昭和十一年五月十五日發行

定價三十五錢

館ルベレフ 社會式株

番七二八三(33)段九話電・二町保神・田神・京東 店 本
番八三九一町本話電・五町後備・區東・阪大 所張出